

science agora 2008



地球の未来 日本からの提案

サイエンスアゴラ 2008



開催報告

みんな集まれ!

サイエンスアゴラは、科学を楽しみながら科学と社会について語り合うための広場(アゴラ)です。

サイエンスカフェ、ワークショップ、討論会、シンポジウム、トークショー、実験工作教室、ハンズオン、ポスター・ブース展示……サイエンスコミュニケーションのさまざまなプログラムがそろっています。サイエンスアゴラの主役はあなたです。

サイエンスアゴラ2008をふりかえる

日時：2008年11月22日(土)・23日(日)・24日(月・休)

会場：国際研究交流大学村 (日本科学未来館・東京国際交流館・産業技術総合研究所臨海副都心センター)

連日開催プログラム



●日本科学未来館



●東京国際交流館



●産業技術総合研究所
臨海副都心センター

ポスター展示



(70) 相対性理論シミュレーターに乗ろう!



(77) Space Tubing ~未来的な身体~

11月22日(土)

※番号はプログラム番号です。

(9) オープニングセッション：サイエンスアゴラ実行委員挨拶に続き、「科学の鉄人」益田孝彦さんによる科学実験ショー「水が教える大気圧」の実演がありました。



(22) 環境教育に未来はあるか～ ESD(持続可能な開発のための教育)に向けて中学校の実践から考えよう～：中学校で実践されている環境教育を通して、中学生と教員が地球の未来について語り合いました。



(66) シルク・ド・さいえんす



(14) 動物園が開く窓：動物園は単なる娯楽施設ではなく、科学教育、環境教育の実践の場です。旭川市立旭山動物園の小菅正夫園長と、TVチャンピオン動物園王選手権チャンピオンの牧慎一郎さんが、動物園のチャレンジとその楽しみ方を伝授してくださいました。



(23) 日欧米国際シンポジウム「地球の環境と科学リテラシー」：日本、欧州連合、米国の科学技術政策担当者、科学教育研究者をお招きし、科学技術を活用して持続可能な社会を実現するために必要な科学リテラシーの涵養方策について議論しました。(詳細はP.13へ)



(73) サントリー「水育(みずいく)」わくわくクイズラリー

11月23日(日)

(83) 理研～新たな可能性に挑み続ける科学のパイオニア



ポスター展示



(75) 再現! ブラナリア実験室!!



(46) 疑似科学とメディア：横行する疑似科学に対して、科学者コミュニティはどう対処すればよいのか。人はなぜ疑似科学にだまされやすいのか。メディアに疑似科学を鵜呑みにさせないためにはどうすべきか。日本学術会議の会員が会場に集まった人々と論じ合いました。

(41) サイエンス・プレゼンテーション2008(第2部)：事前審査で選ばれたチームが、サイエンス・プレゼンテーションの技を競い合いました。これはサイエンスショー「ねんりょうでんち」の一コマ。



(48) 英国王立研究所金曜講話再演「気候変動：宇宙が教えてくれること」：イギリスのサイエンスコミュニケーター、マギー・アデルンさんが、伝統ある王立研究所で行った金曜講話を再演してくださいました。スライドと実験を交えたすばらしい講演でした。

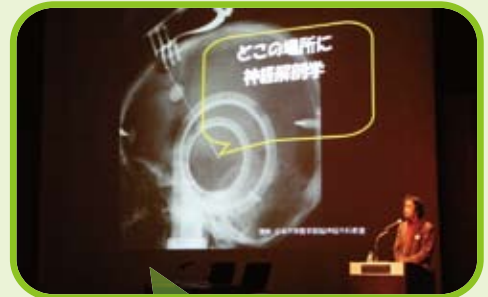


(30) 「へんてこ生物」が人類を救う? 自然に学ぶ循環型社会：地球の環境を守ってくれているシロアリやミドリムシといった「へんてこ生物」たちを取り上げ、その研究の最前線を研究者自身が熱く語りました。



(53) 語り場～これからの科学コミュニケーター養成を考える：科学コミュニケーターに必要な技量、素質は何か、それを養うためには何が必要かを、現場のコミュニケーターたちがワークショップ形式で論じ合いました。

11月24日(月・休)



(60) 脳科学とは? 脳科学者になるには?: 脳科学とはどのような研究分野で、何を目標としているのか。脳科学の最前線にいる研究者が、自らの脳を「分解」して見せてくれました。

(65) 総括セッション～未来の地球 日本からの提案：われわれはサイエンスコミュニケーションを通じてどのような社会を実現しようとしているのか。リチウムイオン二次電池の開発者の基調講演とパネリストによる議論の後、会場からの報告も交えて論じ合いました。そしてその答えは、「サイエンスで21世紀のルネサンスを!」というものでした。(詳細はP.13へ)



主催：独立行政法人 科学技術振興機構 (JST) 共催：日本学術会議 国際研究交流大学村

後援：文部科学省/全国中学校理科教育研究会/東京都教育委員会/独立行政法人日本学術振興会/独立行政法人理化学研究所/独立行政法人宇宙航空研究開発機構/独立行政法人国立科学博物館/財団法人日本科学技術振興財団/科学技術館/自然科学研究機構国立天文台/プリティッシュ・カウンシル

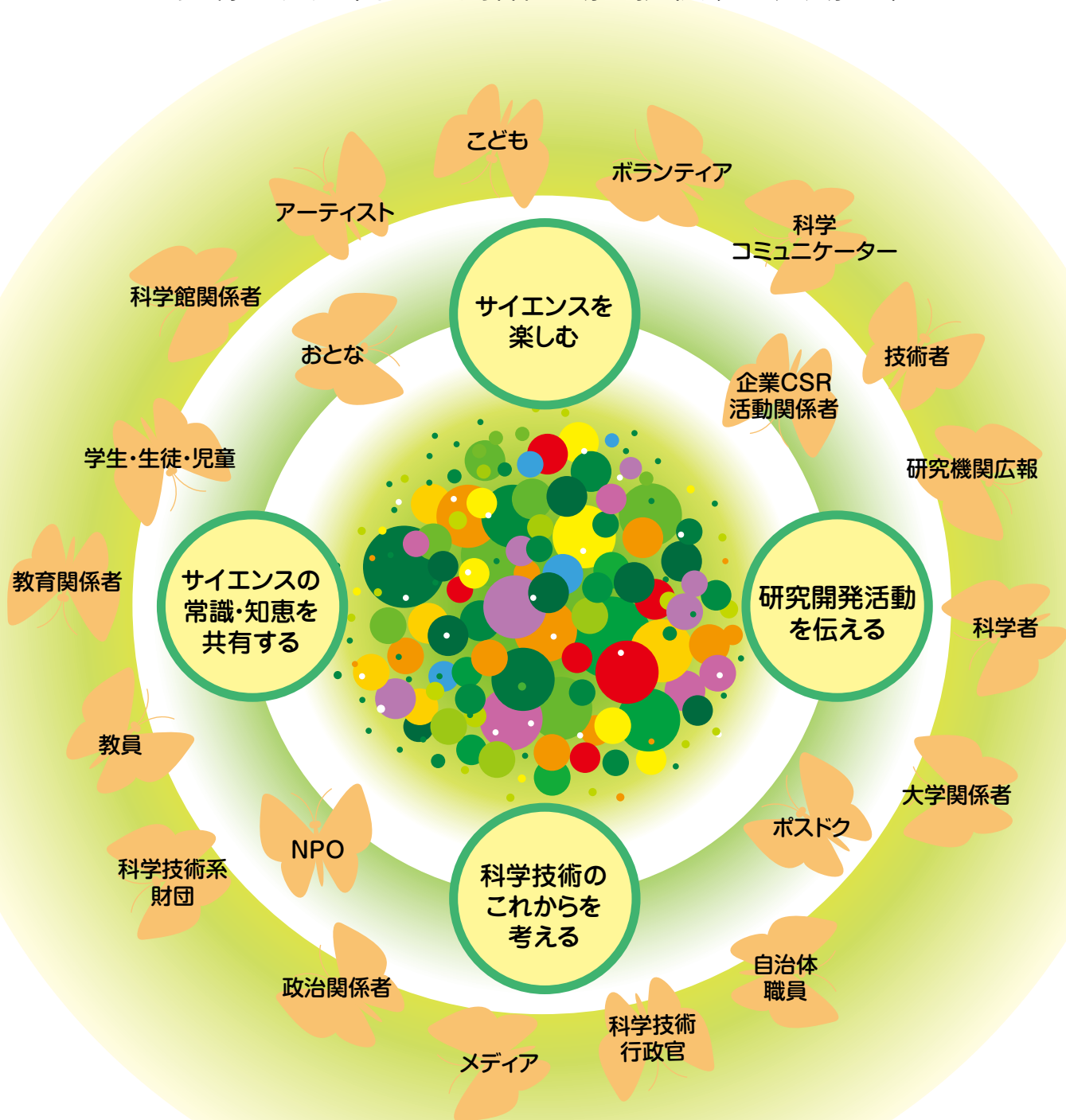
協力：日本大学芸術学部、欧州委員会、米国立科学財団

ひとめでわかるサイエンスアゴラ ～ 広場に集う人々

アゴラとは、「広場」という意味です。

サイエンスアゴラは
サイエンスを楽しみながら語り合うために
すべての人に開かれた広場です。

たとえば図のようなテーマについて
多様な人々同士の対話の場を提供する広場です。



サイエンスアゴラはサイエンスコミュニケーションの広場なのです。

サイエンスアゴラ2008ーこれまでの経緯とさらなる発展を目指して

【サイエンスアゴラとは】

サイエンスアゴラは、科学技術をうまく利用してよりよい社会を実現していくにはどうしたらよいかを話し合うために、2006年から国際研究交流大学村(東京国際交流会館、日本科学未来館、産業技術総合研究所臨海副都心センター)で毎年11月に開催するサイエンスコミュニケーションの一大イベントです。これは、「社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術」を基本姿勢とする第3期科学技術基本計画の主旨に沿った活動の一環でもあります。

人々の理科離れ、科学離れが叫ばれる中、科学技術は難しい、とっつきにくいとか、専門家にまかせておけばいいといったイメージがますます固定しつつあります。しかし、安全安心で持続可能な社会を実現する上で、科学技術の活用は不可欠です。そうした中で科学技術離れや不信感が醸成されつつあるとしたら、よりよい社会の実現は望めません。そうした危機感が募る中、様々な立場の人たちが科学技術をめぐってコミュニケーションを取り合えば、科学技術はもっと身近な文化となり、科学技術に対する国民全体の意識も高まるのではないかという理念が登場しました。そのような理念、そのための活動を、サイエンスコミュニケーション(科学コミュニケーション)といいます。そこでサイエンスアゴラは、科学技術の専門家はもちろん、あらゆる立場の人が参加するイベントを目指し、さまざまなセッションを用意しています。サイエンスアゴラは、科学技術について語り合うための広場なのです(「アゴラ」とはギリシア語起源の言葉で「広場」という意味)。



【サイエンスアゴラの歴史】

サイエンスコミュニケーションの具体的な手法については、これをやれば正解というものはありません。そのため当初は、サイエンスアゴラの開催自体も含めて試行錯誤のスタートとなりました。2006年11月25日から27日の3日間の日程で開催した第1回のサイエンスアゴラ2006では、「科学と社会をつなぐ広場をつくる」をテーマに、とにかくサイエンスコミュニケーションという活動理念の紹介を最大の目標に掲げました。その結果、初回にもかかわらずおかげさまで83団体の参加と132名の登壇者を得て、実質1500名以上(各セッションの参加者数の延べ人数だと3781名)の参加者がありました。

サイエンスアゴラ2006の基本的な企画立案はサイエンスコミュニケーションの専門家とも言うべき6名からなるプログラム委員会が担当しました。2007年11月24～26日に開催されたサイエンスアゴラ2007は、幅広い意見を代表する有識者からなる実行委員会を設置することで、より広い出展・参加者にアピールするイベントの骨子を練りました。初回の第一目標は、サイエンスコミュニケーション関係者の結集でしたが、2回目にあたる2007年は、科学技術政策担当者から、研究者、企業関係者、NPO、個人、家族連れに至るまでの縦軸の繋がりと、全国各地で活動するサイエンスコミュニケーターたちが結集する横軸の繋がりとが交差する広場の創出を目標にしました。

そこで、サイエンスアゴラ2007の開催テーマ「みんなでつなごう未来のスイッチ」を決定すると同時に、実際の企画の大部分は広く公募して審査によって決定するシステムを整備しました。また、共催、後援機関にも企画の提案を依頼し、日本学術会議委員をはじめとして第一線に立つ多数の研究者の参加を得まし

た。さらに、会場となる国際研究交流大学村も共催者の一員となったほか、開幕セッションに英国科学振興協会(BA)の事務局長の出席を得たことなどもあって、国際的な視野を取り込むこともできました。その結果、サイエンスアゴラ2007は、参加者数、プログラム数、出展数、参加団体数のいずれにおいても前年のサイエンスアゴラ2006を上回りました。

【さらなる発展に向けて】

前2回の実績を受けて、サイエンスアゴラ2008は2008年11月22～24日に開催されました。今回のメインテーマは、国際的に環境が話題にされる年だったこともあり、「地球の未来 日本からの提案」と決まりました。また、会場となる国際研究交流大学村のうち日本科学未来館の1階企画展示フロアも使用できることになり、ミニステージ、ワークショップコーナー、サイエンスカフェコーナー、展示ブースコーナーなどを設置しました。

出展企画に関しては第2回に続いて一般から公募すると同時に、CSR活動を展開する企業にも呼びかけ、複数の企業からワークショップの開催、展示ブースの出展などの協力を得ることができました。さらに今回初の試みとして国際シンポジウムを開催しました。欧州委員会と米国国立科学財団の協力を得て開催した日欧米国際シンポジウム「地球の環境と科学リテラシー」です(P.13参照)。



日本科学未来館1階の展示会場を使用できたこともあり、参加者総数は3日間でおおよそ6000名に達しました(日替わりで配布した参加者バッジによるカウント)。特に、これまで日本科学未来館には足を運びつつもサイエンスアゴラにはあまり参加していなかった親子連れの参加が増えたのは、まさに未来館効果と言えます。

ただしその分、参加された方々はそれぞれ目当てのセッションだけに参加し、他のセッションにはあまり関心を向けない傾向が例年よりも顕著になったきらいもあります。これは、多様な層が交差する広場を目指すサイエンスアゴラの目指すところではありません。今後は、縦軸と横軸のつながりだけでなく、様々な層を斜めに貫く軸も多彩に織り込んだ企画や参加の呼びかけを工夫する必要があると考えます。

さらに大きな課題は、サイエンスアゴラが存在と開催の周知が未だに行き届いていない点です。サイエンスアゴラは営利や広告目的のイベントではありません。したがって経費をかけて大々的な告知を行うわけにはいきませんし、そうすべきでもないと考えています。その代わりに、インターネットなどを用いた1年を通じた告知活動、過去のセッション内容の広報などに力を入れることで、サイエンスアゴラの周知とサイエンスコミュニケーション理念の浸透を図りたいと考えています。



データで見るサイエンスアゴラ

サイエンスアゴラ2008は会場となった3つの施設(東京国際交流館、日本科学未来館、産業技術総合研究所臨海副都心センター)に11月22日～24日の3日間でのべ6109名の方が集まりました。総プログラム数は123、出展団体数138、参加協力団体数を加えると156、これらは昨年を上回る規模になり、特に参加者は昨年より倍増となりました。

【参加者数】 計6109名

11月22日(土)	987名
11月23日(日)	3067名
11月24日(月・休)	2055名

*各日の参加者バッジの配布数にもとづきます

3連休の中日となる23日が最も多く、また、日本科学未来館1階企画展示ゾーンaが会場に加わったことで、日本科学未来館の来館者への認知度も高まり、多くの方が参加された模様です。

【プログラムの種類】 計123プログラム

話す	サイエンスカフェ、ワークショップなど	22プログラム
体験	実験・工作教室、体験展示など	18プログラム
聞く	講演会、報告会など	26プログラム
見る	ポスター、映像、ショーなど	41プログラム
	上記の複合型	16プログラム

今回の出展は内容から主だった4つの特徴に分類し、配布プログラムを色分けしました(分類の一覧は右ページ参照)。「語り合う」ことを目的とするイベントであることから、「聞く」にとどまらず「話す」に分類されるプログラムが多いことがサイエンスアゴラの特徴です。

【出展者の所属による分類】 計138団体

任意団体(NPOを含む)	42団体
企業	11団体
科学館	15団体
学校教育・研究機関	57団体
その他公的機関	13団体

サイエンスコミュニケーションに携わる団体・個人は多様性に富んでいます。これらの機関が一堂に会することによって、日常の枠組みを超えての「語り合い」が生まれるきっかけにもなりました。

【サイエンスアゴラ2008の特徴】

1. 会場の特徴を生かしたプログラムの実施

日本科学未来館1階企画展示ゾーンaを「サイエンスアゴラ」の名のとおり、まさに大勢が集まる「広場」にしました。ここでは家族連れをはじめとする一般の方が楽しめる、中でも体験中心の展示、実験、ステージプログラムを実施し、また出展者、参加者の交流を目的としたコミュニケーション広場も設置しました。



2. テーマ「地球の未来 日本からの提案」との関連

サイエンスアゴラ2008の統一テーマと関連のあるプログラムもありました。



3. 一つの団体がとりまとめ、複数のプログラムを実施

サイエンスアゴラがきっかけとなり結成された団体や、サイエンスコミュニケーションを横断的に結ぶことを目的とした団体が複数の出展をまとめ、会期中継続的に複数のプログラムを実施しました。



4. オリジナル企画

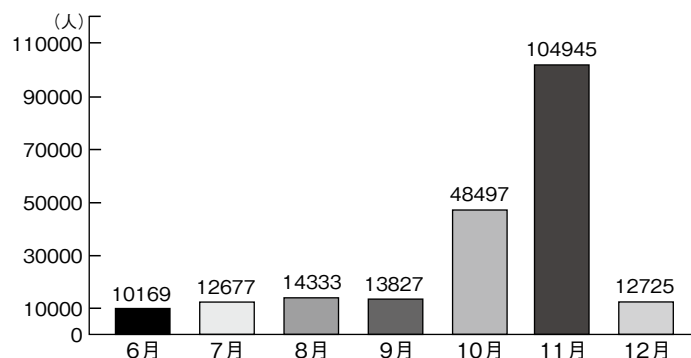
サイエンスアゴラのために企画されたユニークな催しです。



【サイエンスアゴラ2008開催までの主なスケジュール】

- 出展応募開始・・・6月23日(月)
- ミニアゴラ(説明会、地域関係者の情報交換)・・・6月下旬～7月下旬に
仙台、福岡、東京、大阪で開催。
- 応募締め切り・・・8月18日(月)
- プログラムリリース・・・10月2日(木)
- 実施・・・11月22日(金)～24日(月・休)

【サイエンスアゴラ公式ホームページのアクセス数】



6月3日よりサイエンスアゴラ2008の公式ホームページを開設しました(P.12参照)。グラフの数字はページビュー数で算出しており、7ヶ月で20万回を超えるアクセスがありました。訪問数でみても17万回を超えていました。

プログラム分類一覧

※数字はプログラム番号

話す

- 4 大学アウトリーチの可能性
- 7 研究者とかたるミニトーク「宇宙から雨をみる」
- 8 ダイオキシンの4億倍模型をつくり環境を考えよう
- 12 動き出した2つの輪“科学者コミュニケーション”の未来図
- 15 日本の科学技術コミュニケーションはいかにあるべきか？
第四期科学技術基本計画に向けた提言
- 16 インタープリターワークショップ:食の安全を考えよう
- 20 本音で語る「研究問題」～研究問題 メーリングリストの10年～
- 22 環境教育に未来はあるか～ESD(持続可能な開発のための教育)に向けて中学校の実践から考えよう!～
- 26 脳と機械をつなぐ!? 一脳科学者といっしょに考えよう
- 31 研究者とかたるミニトーク「温暖化でお米はどう変わる?」
- 36 第三回サイエンスショップ・シンポジウム 教育プログラムとしてのサイエンスショップ
- 39 科学情報とウェブI科学情報の特性と効果的な情報デザイン
- 44 博士号取得者のキャリアパス支援の現状と課題
- 45 国境を越えた科学のコミュニケーション エコロジー編
- 49 院生必見!理工系・バイオ系の研究キャリアガイド
- 52 科学技術の地平線～市民からのイノベーション発案
- 53 語り場～これからの科学コミュニケーター養成を考える
- 54 循環型社会に貢献するバイオマス研究
- 55 研究者とかたるミニトーク「温暖化で変化する地球の植物」
- 61 今、なぜ「サイエンス映像」なのか
- 62 科学情報とウェブII科学館・博物館の取り組みをさぐる
- 64 これでいいのか大学院生～夏の学校いまむかし
- 65 総括セッション～未来の地球 日本からの提案
- 66 シルク・ド・さいえんす～科学技術広報いろいろ
- 76 横串フィールド

体験

- 5 レーヴェンフック顕微鏡のレプリカを作ろう
- 6 地球温暖化を防ぐ、新エネルギー太陽電池を学ぼう!
- 13 新旧エネルギー対決・キャンドルづくりと燃料電池体験
- 19 アルミ фольドで貨物船をデザインして作ってみよう!
- 21 欧米で行われているロボティクス授業の日本での展開
- 28 自然放射線の飛跡を見てみよう!
- 40 サントリー「水育(みずいく)」わくわくワークショップ ～水のふしぎ～
- 56 発泡スチロールのリサイクル～リモネンリサイクルのしくみ
- 58 オリジナルキーホルダーをめぐってつくろう
- 66 シルク・ド・さいえんす～科学技術広報いろいろ
- 67 めぐる、感染症そして研究の今 サイエンスカフェP4
- 69 かがく縁日 ものづくりをしながら科学を体験しよう
- 70 相対性理論シミュレーターに乗ろう!
- 71 お子様の知性バランスを知る知性チェックプログラム実施中!
- 72 レゴ®ブロックで地球環境と科学を考える!?
- 73 サントリー「水育(みずいく)」わくわくクイズラリー
- 74 水琴窟(すいせんくつ) 一水と大地の響き一
- 75 再現!プラナリア実験室!!
- 77 Space Tubing ～未来的な身体～
- 78 楽しい科学 一科学をアートするワークショップ一
- 79 サイエンス・スクエア臨海・休日公開
- 80 紙ブーメラン教室
- 82 mini セルフエスタ2008in 東京
- 83 理研～新たな可能性に挑み続ける科学のパイオニア
- 93 生き物はおもしろい!
- 102 「ざくっとサイエンス」 ざぼっとHow much?
- 103 「科学技術リテラシー」タイプ別簡単診断!
- 123 トリビアいっぱい!サイエンスアゴラを楽しむ10の方法

聞く

- 1 みんなで考えよう!これからの理科教育
- 2 科学館のチャレンジ～展示開発の成果発表会
- 3 アウトリーチの新しいあり方～モデル開発発表会
- 11 ロボットが活躍する未来へ～早稲田大学 WABOT 開発史と実用化の可能性～
- 14 動物園が聞く窓
- 17 サイエンス・ダイアログ～科学で世界とつながれ!
- 18 出張!!サイエンスミュージアム
- 23 日欧米欧国際シンポジウム～地球の環境と科学リテラシー
- 24 目指せ! 科学のアスリート 国際科学オリンピック日本開催に向けて
- 25 出版不況の中の科学雑誌を語る～科学雑誌の新しい形を求めて～
- 27 工学っておもしろい!!～中高生で学べること～
- 29 サイエンス・プレゼンテーション2008(第1部)
- 30 「へんてこ生物」が人類を救う? 自然に学ぶ循環型社会
- 32 理系作家トーク「科学を語る言葉」
- 33 分子の世界をアートとエコロジーから見る
- 34 将棋棋士の「直観思考」を科学する!

- 35 水をめぐる旅 水の科学技術リテラシー
- 37 世界天文年 キックオフシンポジウム～宇宙・地球・生命
みんなで解き明かすために～
- 41 サイエンス・プレゼンテーション2008(第2部)
- 42 科学で街を元気に! 科学フェスティバルは地域を活性化できるか?
- 46 疑似科学とメディア
- 47 「よみがえる京大サイクロロン」上映&語り合いの会
- 48 英国王立研究所金曜講話再演「気候変動:宇宙が教えてくれること」
- 50 宇宙をわたる生命(いのち)2008
- 57 徹底討論 地域から「日本の科学技術力」を考える
- 59 理系作家トーク「スピリチュアルブームをぶっとばせ!」
- 60 脳科学とは? 脳科学者になるには?
- 63 科学を伝えるということ～サイエンスビジュアルコミュニケーションの役割と重要性～
- 65 総括セッション～未来の地球 日本からの提案
- 66a シルク・ド・さいえんす～特別セッション
- 66 シルク・ド・さいえんす～科学技術広報いろいろ
- 68 MEGASTAR-II Titan 「消えない流れ星」

見る

- 9 オープニングセッション
- 18 出張!!サイエンスミュージアム
- 29 サイエンス・プレゼンテーション2008(第1部)
- 41 サイエンス・プレゼンテーション2008(第2部)
- 43 化学振動と生命現象
- 47 「よみがえる京大サイクロロン」上映&語り合いの会
- 51 科学ライブショー「ユニバース」
- 66 シルク・ド・さいえんす～科学技術広報いろいろ
- 67 めぐる、感染症そして研究の今 サイエンスカフェP4
- 74 水琴窟(すいせんくつ) 一水と大地の響き一
- 76 横串フィールド
- 78 楽しい科学 一科学をアートするワークショップ一
- 79 サイエンス・スクエア臨海・休日公開
- 81 ノーベルかがくショー:ノーベル賞受賞のキセキ!
- 82 mini セルフエスタ2008in 東京
- 83 理研～新たな可能性に挑み続ける科学のパイオニア
- 84 みんなもってるいのち展 いのちのなが～い大冒険
- 85 上空1万メートルから見た地球
- 86 サイエンスアピール・学生ポスターデザイン・アワード
- 87 環境にやさしい化学実験 一マイクロスケール実験の紹介一
- 88 茨城県における地域振興を目指した地質情報活用プロジェクト
～ジオパーク設立を目指して～
- 89 遺伝学の未知の世界をきりひらく
- 90 発生・再生研究の生命倫理とコミュニケーション
- 91 ライフサイエンスの情報を使いこなそう!
- 92 研究者から未来の科学者へアウトリーチ!
- 93 生き物はおもしろい!
- 94 まだ誰も見たことのない世界へ! ～始動!究極の顕微鏡・加速器～
- 95 MISSION SCI-4～科学文化形成ユニットが目指すもの～
- 96 ScienceをThroughしていく新しい試み
- 97 理科教育ツールとしての日本語バイオポータルサイト
- 98 東大科学技術インタープリター養成の軌跡
- 99 未来を担う子ども達のために大学が今できること!
- 100 10000人の実験教室 in 長野県佐久市
- 101 星のある暮らし～「語り部」活動による科学との出会い
- 102 「ざくっとサイエンス」 ざぼっとHow much?
- 103 「科学技術リテラシー」タイプ別簡単診断!
- 104 金曜は出前授業、土曜はサイエンスカフェ
- 105 「てがき」にこだわって電子黒板を利用した質問掲示板
- 106 魅力ある時間学の世界へ
- 107 動き出した2つの輪:「科学者コミュニケーション」の未来図
- 108 花崗岩を通して地域を考える
- 109 宇宙少年団未来MM分団の活動紹介
- 110 サイエンスコミュニケーションinやまなし
- 111 JAXA/ISAS「君が作る宇宙ミッション」の紹介
- 112 科学ライブショー「ユニバース」と学生集団「ちもんず」
- 113 科学技術リテラシー育成のための自律型対話プログラム
- 114 国際科学技術コンテスト 「科学オリンピックへの道」
- 115 のぞき見!科学技術情報Web サイエンスポータル
- 116 大人のための秘密のパンフ「おとなび」の紹介
- 117 Web3Dグラフィックスで創るステレオ仮想世界
- 118 宇宙エレベーター The Space Elevator
- 119 科学実験で迫る「食べ物と身体と地球のつながり」
- 120 食の安全のリスクコミュニケーションを考えよう
- 121 参加型ゲーミングで知る環境問題一食の安全・安心
- 122 死体はみんなの宝物!一動物遺体の役立て方、教えます一
- 124 TANE+1 for サイエンスビジュアルコミュニケーション
～科学を魅せるプロフェッショナルの仕事～

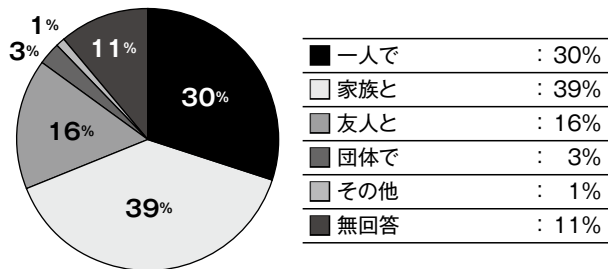
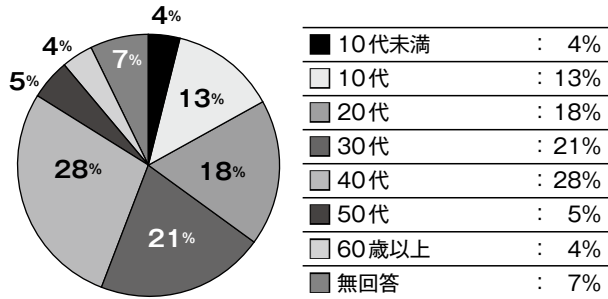
来場者アンケート

来場者に記述していただいたアンケートの結果です。

内容や開催時期、日数、会場に対する満足度は概ね高いことを示す回答をいただきました。今後の開催の参考となりそうなデータをいくつか紹介します。

【回答者の属性】

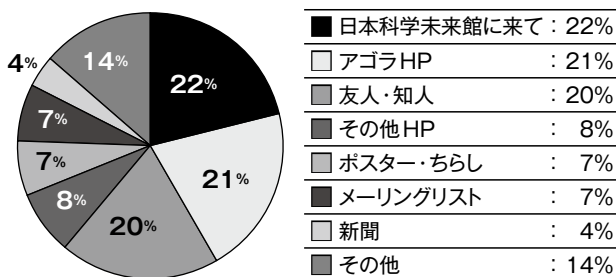
3日間を通した回答数の合計は351でした。男女比は、男性51%、女性41%、無回答8%です。年代的には、20代～40代が全体の66%を占めています。10代以下は17%でした。回答者の居住地は22都道府県にまたがっているものの、全体の82%が東京・千葉・埼玉・神奈川からの来場者でした。33%の人が、大学村(日本科学未来館を含む)に来たのは初めてと答えています。参加形態は、単独参加は30%で、残りは同伴者を伴っての参加でした。家族連れの参加は40%です。家族連れが多数を占める割に参加者の年齢層が高いことから、10代以下の実質的な参加者はかなりの人数にのぼるものと思われる。家族連れの割合は昨年の倍でした。



【情報源】

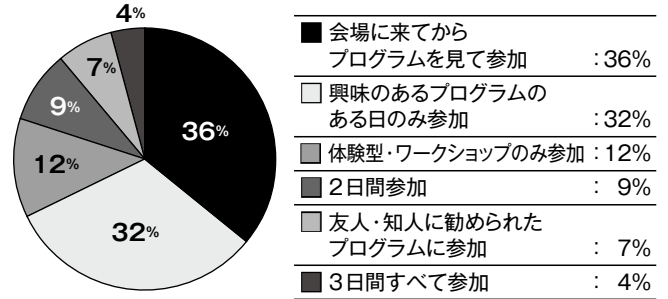
サイエンスアゴラが開催されていることを知った情報源は、日本科学未来館に来てが22%、サイエンスアゴラのホームページが21%、友人・知人が20%でほぼ同じ割合でした。

昨年のアンケートでは、日本科学未来館に来て知ったと答えた人の割合は5%でした。家族連れの参加者増と考え合わせると、日本科学未来館1階の企画展示ゾーンを使用した効果は大きかったようです。ただし、ホームページを除くメディアを通じた広報が今後の課題と思われます。

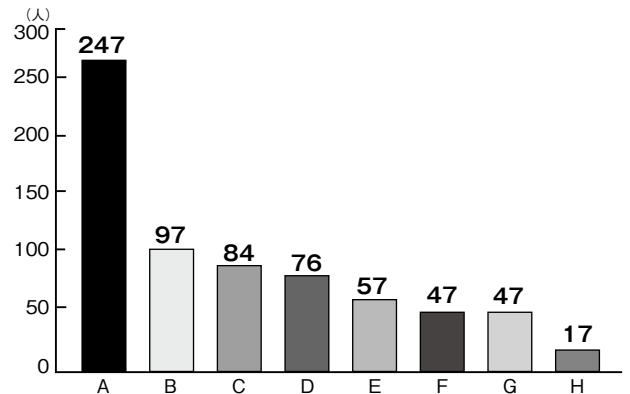


【参加スタイル】

参加スタイルは、当日「会場に来てからプログラムを見て参加」と答えた人が36%と最多で、次いで「興味のあるプログラムのある日のみ参加」と答えた人が32%でした。



【何を期待して参加したか】



A	科学を楽しむ	247人
B	新しい科学技術の内容について知る	97人
C	科学と社会のあり方について考える	84人
D	サイエンスコミュニケーションの動向について知る	76人
E	サイエンスアゴラに参加する人たちと交流する	57人
F	著名な人の話を聞く	47人
G	自分のサイエンスコミュニケーションスキルを向上させる	47人
H	その他	17人

質問「サイエンスアゴラに何を期待して参加しましたか」(複数回答可)に対する回答は672件ありました。断然多かったのが「科学を楽しむ」ためという247件でした。それ以外は、「新しい科学技術を知る」(97件)、「科学と社会のあり方について考える」(84件)、「サイエンスコミュニケーションの動向を知る」(76件)とほぼ同数でした。複数回答なので、「科学を楽しむ」と同時に先端科学技術や科学と社会、サイエンスコミュニケーションをめぐる動向に関する期待もあったものと思われる。

【サイエンスアゴラに参加して】

質問「サイエンスアゴラに参加して新しい発見や感動はありましたか」に対して「はい」と答えた人は88%(無回答9%)、「アゴラに参加してよかったと思いますか」に対して「はい」と答えた人は89%(無回答9%)でした。

具体的な「発見や感動」として次のようなコメントがありました。

- サイエンス・コミュニケーションの活動がこんなにたくさんあり、身近であると感じた(20代・学生)

来場者アンケート

- 生身の先生にお会いできたこと。ネット画面よりスリムでした(50代・無職)
- 大学院生が独自に活動して成果をまとめていること(30代・教育関係者)
- 今まで、子どものために来ていて、自分は見守るだけでしたが、同じフロアでサイエンストークがあり参加することができた。コーヒーまでいただきました!(40代・薬剤師)
- 理科を生活の中で、身近に感じられた。ウニの精子を顕微鏡で見たのはおもしろかった(40代・会社員)
- これまでの相対性理論の解釈がちがっていたこと(40代・主婦)
- 技術者の意見を聞き、新たな知見が得られた(30代・公務員)
- 科学に関心を持つ人が増えているのでしょうか。去年よりも盛り上がっているように思いました(40代・建築関係)
- 自分が今まで知らなかった、科学にかかわる仕事を知ることができた(20代・大学院生)
- 物のちがいがわかった(男子小学生)

「発見や感動」がなかったと答えた人のコメントとして次のような意見もありました。

- あまり研究者側の積極性を感じない(感染症を除く)(40代・教員)
- 中高生向けのイベントが少ない。江崎先生がいらっしゃるなら研究内容のお話、毛利さんがいらっしゃるなら宇宙のお話をしていただけたら子どもの人数が増えるはず(40代・主婦)

以下は、「参加してよかった」具体的な内容についてのコメントです。

- いろいろな人とはなしができた(20代・学生)
- 自分だけの考えでは思いつかないことがこんなにあるのかと勉強になりました(30代・会社員)
- イベントに活気があった(30代・研究職)
- 子供が楽しめる内容のものも用意されていた(30代・会社員)
- 以前よりも、科学に興味を持てるようになった(20代・会社員・事務職)
- 自分もサイエンスコミュニケーションに関わりたいと思った(40代・会社員)
- 苦手な科学がちょっと好きになった(20代・教員)
- 科学は難しく遠いものではない(40代・主婦)
- 日本が食べて行く為の重要な科学技術の健全な発展が拝見できました(30代・会社員)

「参加してよかった」とは思わないと答えた人の意見もありました。

- ポスター発表をまじめに考えていない発表者もいた(50代・大学技術職員)
- 各ブースでの関連性や説明に明確なメッセージ性がない(20代・中学教員)

【科学と社会の関係について考えるきっかけ】

質問「アゴラは、科学と社会の関係について考えるきっかけとなりましたか」に対しては、「はい」が61%、「いいえ」が21%、無回答が18%でした。

「はい」と答えた人で、「特にどのような関係」でそう思ったかのコメントとして次のようなものがありました。

- 国をあげてイベントを企画しているわりに一般の人に伝わっていない。もっと多くの人に科学の面白さを知るきっかけになるイベントづくりを工夫してほしい(30代・会社員)
- 科学は社会に対する説明と科学の方向性を示す。または、社会はそれを知っているいろいろな形で反映させる。教育予算(50代・教育関係者)
- 最新の研究結果が一般人に理解できる形になるまでには、長い時間が必要なこと(40代・主婦)
- 科学も広く考えると必ず社会の何かと当たる。どの分野も常に考えていることが重要(50代・男性)
- 政策の施策に、自分たちの意見を反映させるにはどうしたら良いのか(30代・

元大学職員)

- サイエンスカフェが目指す社会は…?「科学を文化に」の具体的内容は?(20代・大学院生)
- サイエンスコミュニケーションの重要性が認められつつあるということを再認識できました。ただ、より進んだ新しい取り組みや方針について教えていただければ、と思いました(20代・大学院生)
- 社会が科学を理解する糸口になればいいです(男子高校生)
- 身近にある科学、ということを再認識することが、自信を取り戻すきっかけになると思った(20代・広告代理店勤務)
- 科学はとても身近な分野であり、学校教育の場でも、もっと身近な話題として取り扱ってほしいです(40代・教育関係)
- 感染症レベル4の施設を日本でも認めるべき(30代・システムエンジニア)
- 大人になったらやってみようと思った(女子小学生)

【自由記述】

- 各企業をもっと参加させてイベントを増やしたほうがいい(30代・会社員)
- 環境問題についてみんながもっともっと考え、取り扱えること今やらなければならないことをアピールしたイベントをどんどん開催してほしいです(30代・会社員)
- イベントのターゲット層がよく分からない。難しい展示と子供向けの体験コーナーはあるが、その中間に位置するような展示がないのは残念。広告宣伝方法がうまく機能していないように思います。横浜トリエンナーレとか、参考にされてはいかがでしょうか?(30代・会社員)
- 各ブースがどういう内容か分からなくてすごく迷いました。ツアーに参加したのはすごく楽しくておもしろかったです。もっと各ブースの内容等が分かるとありがたいです(20代・事務員)
- 多様性に富んでいることがアゴラの特徴。今後も問題点、プラス面を考えながら継続を期待します。「リチウムイオン電池」、「地域をおこす」など面白い話が聞けてよかった。直接聞くと熱意、インパクトが強く伝わり、いいものです(50代・男性)
- 「ねんりょう電池をくみたまてよう」で水素で電気をつくるのが、おもしろかったし、地球温暖化のことも、よくわかった。ろうそく作りが、とってもおもしろかったです(女子小学生)
- 一人でも楽しめるコーナー、イベントがあればよかったと思います。家族連れの方とかは良いと思いますが、一人の女性が回るには、わかりづらく、もっと他にも楽しむ方法があるのかと感じました(20代・販売員)
- 未来館1・7Fで開催されていたこともあり、入場券を購入してしまいました。入館システムをわかりやすくしてほしい。また、未来館1Fの入口にはサイエンスアゴラの表示がなく、分かりにくかった。(特に7Fについて)内容自体は、とても楽しむことができました。ありがとうございます(大学生)
- 夢のようなことも実現できていることを見て、大したものだと思います。日々それを研究している方々に接することができたのもよかったです。こどもも興味を持つきっかけになると思います(40代・主婦)
- 科学をいろいろな人が知る、考える、語ることは重要。一言辛口のことを言います。「アゴラ」はサイエンスコミュニケーターの祭りにはいけないと思います。重要なのは「サイエンス」、「ものを考えること」そしてそれと人々がつながること。サイエンスコミュニケーターはその介助者であって、媒介人ではない。やはり研究をする人が科学に近い人であり、そのような人(科学に直接携わる人)がコミュニケーションするのが王道で、サイエンスコミュニケーションだけを専門にする人が主役になるのは邪道。科学者を社会に引き出す介助人たるべきです(50代・公務員)
- 分野を広げて、1年に何回かに分けて行ってほしい(40代・会社員)
- 研究者になりたいと思いました(女子小学生)

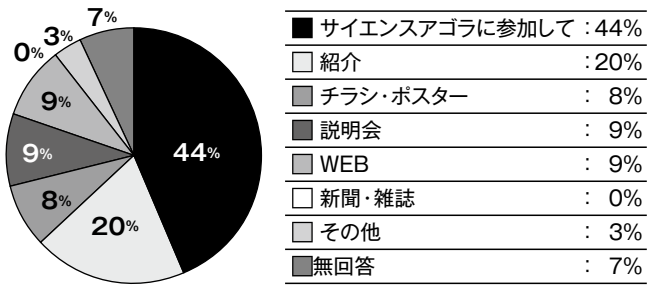
出展者の声から振り返るサイエンスアゴラ2008

サイエンスアゴラに出展された方に、参加前と参加後に抱かれたご意見を伺いました。

「出展にあたって」については、申し込み時に記入されたもの、「出展を終えて」については、サイエンスアゴラ終了後1週間後に記入いただいたものをもとにしています。

▼出展にあたって 回答77団体

【出展のきっかけ】(複数回答あり)



【サイエンスアゴラに期待すること】

出会い、交流の場

回答の半数は「交流・出会い」をキーワードとして挙げていました。その対象は、一般の方、若手研究者、学校教育関係者など様々です。

- 科学コミュニケーションを重視するからには、当方の広報グッズなどに対して一般参加者のご意見を頂くなど、「聞く」側に回ることも意識したいと考えています。様々な層のたくさんの方と出会うことを期待しています。
- 子どもから大人まで、専門家から市民まで様々な人が気軽に参加し交流でき、社会と科学の交流の場、情報発信の場として発展されることを望んでおります。
- 2007でもさまざまな出会いがあり、そこからメンバーが増えたり、雑誌取材につながるなど成果があった。ぜひ今年も積極的に交流し、そのような成果が生まれることを期待している。

報告、発信の場

回答中4分の1にあたる方は「情報・発信」の場として活動を報告し、考えるべき問題を発信する場として期待をよせています。

- この十数年、若い人達の「科学離れ」が顕著になっている。これでは日本の将来が危うい。少しでも若い人達に科学に感心を持ってもらうために、この「サイエンスアゴラ」が役立つのを期待する。
- 先端の科学研究成果を一般社会に伝える良い機会になってほしい。さらに未来の科学者である子供達に科学の楽しさ、重要性について伝えられる機会をつくってほしい。
- 私たちのような、比較的硬派な企画も大事にしてくださいとうれしく思います。
- 科学の良い面を市民に伝えるだけではなく、科学が抱える学費や教育、就職の問題も伝えてほしい

大勢が集う場

やはり、4分の1程度の方が、立場の異なる大勢がイベントに集うことも期待されています。

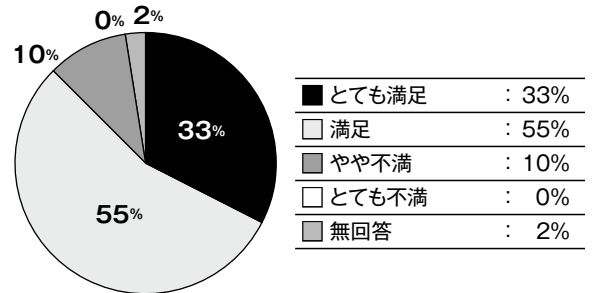
- バイオ系学生や文科系学生、中高生、一般の方々など、様々な立場の方が来場されることを希望します。
- 日本の科学の現場を支えている「人」である、大学院生、企業・大学研究者、大学教員などをちゃんと巻き込む企画が欲しい。
- 科学技術に関するアウトリーチ活動の社会的認知度がもっと向上するように

頑張ってもらいたい。

- できるだけ一般の方に多く参加頂けるように広報をお願いしたい。

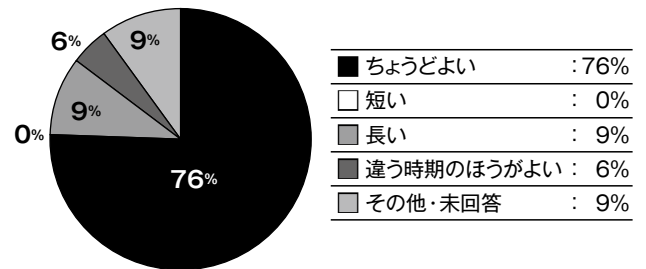
▼出展を終えて 回答40団体

【実施したプログラムについて】



全体的に満足度が高いようです。やや不満の意見の中には、プログラムの運営について事前の想定と異なったという意見がありました。

【開催時期、日数について】(複数回答あり)



秋の行楽シーズンと重なり、学生の定期試験の合間で参加しやすいという意見も多ものの、学園祭と重なるためイベント閑散期に実施してはどうか、外での出展も実施するなら暖かい時期に、という意見もありました。

3日間という日数は、連続出展の団体にとって試行錯誤の機会や、他のブースも見学しやすいという利点にもなっているようです。反対に運用人数が少ない等の理由から、3日間が負担になるという意見もありました。その他の意見として、関係者のみの非公開日をつくって、交流や議論ができるようにしてはどうかという意見もありました。日によって参加対象を分ける等の工夫が求められているのかもしれませんが。

【次年度に向けてのアイデア】

プログラムについて

画一的ではない対応が必要とされるのかもしれませんが。

- 多くの催しに参加できるために、時間の枠ははっきりつくったほうがいいと思います。2時間標準、1時間ずつ前半・後半にわける、など。今回も、原則90分を徹底してよかったと思います。
- グループディスカッションを行うセッションがいくつかあったが、時間があまりにも短く、上面なことしか議論できていない。これでは、参加してもちょっと面白くない。もっと深いところまで突っ込んで議論できるよう、もっと長い時間枠を確保すべきだと考える。
- 出展参加者が科学関連の団体に偏っている感があるが、今後は企業や芸術・文化団体などを巻き込み、もっと多様なアプローチを追求すれば参加層の幅が広がるのではないかと。
- 出展参加グループのコラボレーションを優遇してはどうか?複数のグループが互

出展者の声から振り返るサイエンスアゴラ2008

いを補って1つの発表を完成させ、交流を促進させる。

- 同じ題目で、複数の出展者を募る。

会場について

- 場所が、未来館と東京国際交流館だけでも離れている感じがありました。アゴラを出展者みんなで盛り上げる雰囲気作りがほしいと思います。
- もっと一般の方に来てもらえるよう、出店などを外に出してお祭りムードを出しても良いのではないのでしょうか。特に国際交流館の方は、せっかく体験できるコーナーなどもあったのですが、一般の方が気づきにくいような雰囲気だったと思います。外での展示や、出店などを未来館と国際交流館の間に設置すれば自然と交流館の方にも足が運ぶと思います。

広報について

- 初参加でしたが、サイエンスアゴラのことを大好きになりました！一方で、開催前に一度も見かけることになかったアゴラに関する広告と記事。おそらく予算が少ないのですが、事前の広告戦略が非常に弱いよという印象を受けました。積極的プレスリリース、ネットメディアの活用、バイラルの試みなど、低予算でもできる手段を尽くして欲しい。来年の企画に向けて、何かしらの事前協力をさせて欲しいと切に願っています。

【来年度参加者、サイエンスアゴラへのメッセージ】

出会い・交流の場として

- とても素晴らしい企画だと思います。子ども、保護者、教育関係者などが相互に交流できる雰囲気がこの企画の魅力だと思います。より多くの方がご覧いただける様になるとよいと思います。
- 話しかけると必ず答えて(応えて)くれる参加者ばかり。この人の温かさ出会うつながりが一番の魅力だと思います。

対話の発展の場

- 全国からこれだけのSC(サイエンスコミュニケーション)関係者が集まることは本当に意義があると思う。更にどんなことを目指すのか、大きな提言なども盛り込んでほしい。
- たくさん子どもたちが来てくれて、リピーターもいました。子どもへの説明を、スタッフの家族(子ども)からしてもらったところ、それがとてもよかったと感じました。子どもたちも主催者側になつて参加したほうがよいと感じました。研究過程のものを試用し、その反応をみる絶好の機会でした。ありがとうございました。
- 自分が参加して来場者の意見を聞き、また多くの団体の活動発表を見て交流することで、自分たちの活動や発表方法を振り返り、アイデアを得て、よりよいものにできると思います。

調査発展の場 もしくは 視点が広がる場

- 私どもの出展は、生命科学を専門とする研究者もしくは、学生をターゲットにしています。それにも関わらず、親子連れや生命科学以外の分野を専門とする研究者などに立ち寄っていただいたのでそのような人たちが楽しめる・喜んでくれるような工夫が必要だと感じました。
- 今回初めて参加したのですが、思った以上に雰囲気も良く、とても楽しむことができました。立場や対象者、目的も少しずつ違う、色々な形のサイエンスコミュニケーションが拝見できて、世界が広がりました。ただ自分のブースにつきっきりになってしまいあまり講演に参加できなかった点が残念です。
- サイエンスコミュニケーションを実践する小さな団体にとって、ほとんど費用がかからず出展できる場があるのは大変よいと思います。ひとつの実践の場であると同時に、調査の場としても活用できるものだと思います。

様々な機関が集まる場

- 一般の方が参加費無料で、これだけ様々なもの(それも産官学の様々な方面からのアプローチがある)を見られるイベントはなかなか無いので、「サイエンスアゴラ」という取組みは今後も続けていくべきだと思う。日頃なかなか一般の方の考え方や触れ合う機会の無いような出展者にとっては大変有意義な時間となると思う。
- 全国で定着している青少年のための科学の祭典とは違い、サイエンスアゴラの良いところは、主催者から来場者への一方的なアピールだけでなく、会場でのコミュニケーションが図れるところであると思う。また、最先端の科学技術にも身近に触れ合うことができるのもよいところである。各地で行われているサイエンスカフェのような気軽に参加し、意見を交換できるものが、もう少しあってもよいと感じた。また、出展者の立場からは、全国的なイベントに参加することでいろいろと情報を得ることができ、地元を持ち帰ってからも活動に生かせると思う。サイエンスアゴラの地方版や、サイエンスアゴラジュニアといったもう少しターゲットを絞ったものにしても、来場者が参加しやすいものになるのではないかと感じている。
- (国際交流館でのポスター・ブース展示に参加しての感想)出展者の多くは、自分の展示を発表するだけで、他者の展示を見ることはなかったと思います。一方的に発信するだけでなく、受け取る側にも立つ姿勢が必要です。サイエンスアゴラはそういう場であるべきです。また、この手のイベントを地方でも開催することが必要です。
- 科学には『エンターテインメントとしての底力』が備わっていると思います。映画や小説を振り返ってみると、感動する場面や笑ってしまう場面ってけっこう個人差があるのに、びっくりする場面は、だいたいみんな同じような気がします。「!」って共有性の高い感情なんです。しかも、今度はそれを誰かに教えて、相手の驚く顔が見たくなっちゃう。「!」の伝播力ってすごいんです。科学は、『驚き』の学問。人類が自らの常識を打ち破り、積み重ねてきた『知的発見』の結晶体です。伝え方だけで、まだまだ多くの人を夢中にさせることができるのではないのでしょうか。科学にはエンターテインメントの底力があります。社会のため!人類のため!だけじゃあなくて、まず楽しいじゃん!という立場からサイエンスアゴラをさらに盛り立ててほしいなあと思います。

【アゴラの目指すもの】

よせられたメッセージの中には、今後のアゴラが目指す方向性について提案するコメントもありました。

- 中学生や高校生などこれから専門性を身につけようとしている若年層をターゲットに、参加型で、教養、知識として何か持って帰ることができる内容のものがあればよいと思う。交流館に展示されていたものについても、興味があってもポスターや掲示物、置いてあるパンフレットだけでは内容を理解することが難しく、やはり人を介してコミュニケーションができるようなスタイルがよいと感じた。貴重な情報も無口な展示では非常にもったいないと感じた。ポスターばかりを並べているようなブースでは、壁にずらりと並べて掲示するだけでなく、一つの部屋の中で、まわりにポスターを掲示し、部屋の真ん中に、出展者と来場者、出展者間が話ができるようなサイエンスカフェ的なスペースがあればポスター展示も活性化されるのではないと思う。
- 科学の祭典と差別化するのであれば、(子どもを除いた)一般市民のための科学をめざしてもよいと思う。

広報面その他、ご期待に沿えない部分が多々ありましたが、今後の改善と発展を望む声が多数ありました。また、地方版の開催を望む声も出ています。

3回目を実施して、「サイエンスアゴラ」の目指すものが形になりつつあることが出展者のご意見からも見えてきました。いただいた声をもとにサイエンスアゴラ2009開催に向けて、準備を進める予定です。

なお、来年度については、引き続き出展したい、条件次第で出展する、と答えた方が9割以上となりました。

サイエンスアゴラ2008 メディア掲載・放送一覧

【プリント】

No.	媒体名	媒体社名	発売日	掲載号
1	日刊工業新聞	日刊工業新聞社	2008.6.30	
2	毎日新聞(東京版)	毎日新聞社	2008.10.19	
3	毎日新聞(札幌版)	毎日新聞社	2008.10.19	
4	毎日新聞(名古屋版)	毎日新聞社	2008.10.19	
5	毎日新聞(大坂版)	毎日新聞社	2008.10.19	
6	毎日新聞(北九州版)	毎日新聞社	2008.10.19	
7	朝日新聞 夕刊(東京版)	朝日新聞社	2008.10.22	
8	朝日新聞 夕刊(札幌版)	朝日新聞社	2008.10.22	
9	朝日新聞 夕刊(名古屋版)	朝日新聞社	2008.10.22	
10	朝日新聞 夕刊(大坂版)	朝日新聞社	2008.10.22	
11	朝日新聞 夕刊(北九州版)	朝日新聞社	2008.10.22	
12	東京シーサイドストーリー	産経新聞社	2008.10.25	11月号
13	日経サイエンス	日経サイエンス社	2008.10.29	12月号
14	日経産業新聞(東京版)	日本経済新聞社	2008.11.4	
15	日経産業新聞(大坂版)	日本経済新聞社	2008.11.4	
16	読売新聞(東京版)	読売新聞社	2008.11.12	
17	読売新聞(名古屋版)	読売新聞社	2008.11.12	
18	読売新聞(札幌版)	読売新聞社	2008.11.12	
19	読売新聞(高岡版)	読売新聞社	2008.11.12	
20	読売新聞(北九州版)	読売新聞社	2008.11.12	
21	朝日新聞 夕刊	朝日新聞社	2008.11.13	
22	科学新聞	科学新聞社	2008.11.14	
23	高知新聞	高知新聞社	2008.11.14	
24	静岡新聞	静岡新聞社	2008.11.16	
25	東京新聞	中日新聞東京本社	2008.11.16	
26	中日新聞 夕刊	中日新聞社	2008.11.16	
27	北陸中日新聞	中日新聞社	2008.11.16	
28	東京新聞	中日新聞東京本社	2008.11.18	
29	中日新聞	中日新聞社	2008.11.18	
30	琉球新報 夕刊	琉球新報社	2008.11.18	
31	日経キッズプラス	日経BP社	2008.11.18	2009年1月号
32	朝日新聞	朝日新聞社	2008.11.20	
33	日刊工業新聞(東京版)	日刊工業新聞社	2008.11.20	
34	日刊工業新聞(大坂版)	日刊工業新聞社	2008.11.20	
35	R25	リクルート	2008.11.20	No.217
36	産経新聞	産経新聞社	2008.11.21	
37	朝日小学生新聞	朝日学生新聞社	2008.11.21	
38	愛媛新聞	愛媛新聞社	2008.11.21	
39	朝日新聞 夕刊(東京版)	朝日新聞社	2008.11.22	
40	朝日新聞 夕刊(札幌版)	朝日新聞社	2008.11.22	
41	東京新聞 夕刊	中日新聞東京本社	2008.11.22	
42	日本経済新聞	日本経済新聞社	2008.11.22	
43	The Daily Yomiuri	読売新聞社	2008.11.22	
44	朝日小学生新聞	朝日学生新聞社	2008.12.7	
45	西日本新聞	西日本新聞社	2008.12.8	
46	北海道新聞 夕刊	北海道新聞社	2008.12.13	
47	秋田魁新報	秋田魁新報社	2008.12.14	
48	毎日小学生新聞	毎日新聞社	2009.1.12	

【通信社】

No.	媒体名	媒体社名	配信日
1	共同通信	共同通信社	2008.11.15

【テレビ】

No.	番組名	放送局	ネット数	放送予定日
1	TBA	TBS:東京放送	-	2009年3月頃

【ラジオ】

No.	媒体名	放送局	放送日
1	レインボータウンFM	レインボータウンエフエム放送株式会社	不定期複数回

【WEB】

No.	媒体名	媒体社名	配信日
1	ゆりかもめ	株式会社ゆりかもめ	2008.10.6 http://www.yurikamome.co.jp/
2	総合イベント情報サイト	ブライトリンク株式会社	2008.10.10 http://cotosaga.com/
3	毎日 jp	毎日新聞社	2008.10.19 http://mainichi.jp/
4	日経 Kids+	日経BP社	2008.10.20 http://www.kidsplus.jp/
5	AstroArts	株式会社アストローツ	2008.10.21 http://www.astroarts.co.jp/index-j.html
6	AstroArts	株式会社アストローツ	2008.10.23 http://www.astroarts.co.jp/index-j.html
7	Bpnet	日経BP社	2008.10.23 http://www.nikkeibp.co.jp/
8	日経サイエンスWeb	日経サイエンス社	2008.10.23 http://www.nikkei-science.com/page/keijiban/museum.html
9	NewtonPress Web	株式会社ニュートンプレス	2008.10.28 http://www.newtonpress.co.jp/
10	東京都水辺イベント情報	東京都産業労働局	2008.11.4 http://mizube-tokyo.jp/
11	おでかけネット	JR西日本	2008.11.11 http://www.jr-odekake.net/
12	えきねっと	JR東日本	2008.11.11 http://www.jreast.co.jp/tabidoki/
13	サイエンスキッズ	学研	2008.11.12 http://kids.gakken.co.jp/kagaku/
14	レッツエンジョイ東京	ぐるなび	2008.11.13 http://www.enjoytokyo.jp/OD003Top.html?ODEKAKE_ID=7
15	朝日マリオン・コム	朝日新聞社	2008.11.13 http://www.asahi-mullion.com/event/index.phtml
16	東京新聞	中日新聞東京本社	2008.11.16 http://www.tokyo-np.co.jp/article/daizukai/2008/CK2008111302100011.html
17	東京新聞	中日新聞東京本社	2008.11.18 http://www.tokyo-np.co.jp/article/technology/science/CK200811180200168.html
18	毎日小学生新聞	毎日新聞社	2009.1.12 http://mainichi.jp/life/edu/maishou/minna/

制作物

サイエンスアゴラをより多くの人に知っていただくために、次のものを制作しています。

印刷関連

出展、参加を呼びかけるポスターやリーフレット、当日プログラム

ポスター等は事務局と出展者のネットワークを用いて学校や科学館、研究機関等へ広く頒布されました。このほかにも、出展者独自にポスター、プログラム、リーフレットなどが作られました。

◆ポスター



◆当日プログラム



◆リーフレット



◆参加者バッジ



◎デザイン
木村 政司氏
(日本大学芸術学部)

◆アゴラかわら版 (2008.11/22、11/23、11/24、12/11 発行)



◎アゴラかわら版編集
矢ヶ部 信吾氏
(東京工業大学大学院/JSTインターン)

番組

『科学で広げるコミュニケーション ～サイエンスアゴラ2008～』

出展に向けた準備や当日の様子などを収録した番組を制作しました(サイエンスチャンネルで2009年3月1日放送予定、サイエンスチャンネルホームページ[<http://sc-smn.jst.go.jp>]では3月2日より視聴可能)。
また同ホームページでは、サイエンスアゴラ2007の様子を収録した番組『あつまれ科学の“広場”へ -サイエンスアゴラ2007-』も視聴可能です。

WEB

公式ホームページ <http://scienceportal.jp/scienceagora/>

ホームページには、開催概要、プログラムのほか、“事務局ブログ”“映像・写真で見るアゴラ”などを掲載しています。サイエンスアゴラ終了後も各プログラムの報告を掲載するなど、継続する予定です。



サイエンスアゴラ実行委員会企画プログラムから

サイエンスアゴラ2008では、初の試みとして国際シンポジウムを開催したほか、メインテーマに絡む「日本からの提案」に繋がるプログラムとして総括セッションを実施しました。この2つのプログラムの概要を紹介します。

23. 日欧米国際シンポジウム 地球の環境と科学リテラシー

地球環境の未来にとって、市民の科学リテラシーが重要な鍵を握っています。世界が置かれている状況を科学技術、教育を通じて打開するための方策について、日本、欧州連合、アメリカ合衆国の専門家が、科学技術行政・科学教育について論じました。



●プログラム

「欧州連合の科学教育」ルイージ・ベルリングエル(Luigi Berlinguer イタリア科学技術文化醸成専門家委員会委員長、元イタリア文部科学大臣)

「日本の科学教育と科学技術政策」相澤 益男(内閣府総合科学技術会議議員)

「米国科学財団における研究と教育の統合活動」マチ・ディルワース(Machi F. Dilworth 米国国立科学財団東京事務所長)

「ヨーロッパと日本の若者の科学に対する態度— ローズ調査による比較」

スヴェイン・ショーバーク(Svein Sjøberg オスロ大学教授)

まとめ 北澤 宏一(独立行政法人科学技術振興機構理事長)

司会 美馬 のゆり(公立ほこだて未来大学教授、サイエンスアゴラ実行委員)

各国、地域における科学教育に対する国をあげた取り組みが紹介されました。

EUでは知識基盤社会を構築するために、①教育システムの向上、②それをすべての人に開かれたものにする、③ヨーロッパの教育システムを世界に公開する、という3つの主目標を掲げています。学生の意識は、理工系への関心は低下し、女子生徒の理工系に対する勉学意欲は男子よりも低く、理工系への進学意欲は理系職業のイメージ、カリキュラム内容、教師の質に大きく左右されており、EUは、そうした状況を打開するための方策に取り組んでいます。その最終目標は、単なる次世代理工系人材の育成ではなく、人生を切り開いていくための素養をすべての子どもが身につけることであり、それが実現してこそ民主主義と躍動的な市民社会の実現が可能であり、そのための長期的な取り組みを続けているとのことでした。

総合科学技術会議の相澤議員からは、日本における科学技術系人材の育成方針とその対策に関する方針が報告されました。施策の重点は、優秀な理工系人材を確保するために裾野の拡大を図ると同時に優秀な才能の芽を伸ばすための教育も検討されており、育った優秀な人材がその能力を発揮できる環境の整備にも力を入れているとのことがありました。

米国国立科学財団(NSF)では、科学・工学・数学の研究助成のほかに、あらゆるレベルの科学教育プログラムの支援と表彰・奨学制度、フェロウシップを実施しているとのことでした。NSFが科学教育支援にかける最終目標は、「世界に通用する、広い意味での科学技術系人材の育成と、あらゆる市民の科学リテラシーの拡大」であり、そのための多様な支援を展開しています。

ショーバーク教授は、世界45カ国の中で15歳の生徒を対象に実施した科学に対する意識調査(ローズ調査)の結果を報告しました。それによると、①生徒はみな、意味のある仕事、自分の価値観や個性にあった仕事に就きたいと思っている、②しかし先進国の生徒ほど、それが科学技術関連の仕事で見つかるとは思っていない(女子生徒の方がその傾向は強い)、とのことでした。日本の生徒は、環境問題に対する関心度がひとときわ高い一方で、女子生徒は科学の恩恵に対して45カ国中でもっとも懐疑的です。この結果を解釈するには、若者文化と科学技術の一般的イメージとの齟齬や、それぞれの国の文化的背景を理解する必要があります。

シンポジウム全体の議論をまとめると、日欧米の3地域とも、地球環境の先行きに対する危機感が高く、関連した問題を解決するためにも、科学教育と人々の科学リテラシーの向上が重要な鍵を握るということで意見が一致しました。科学リテラシーの向上が必要なのは、地球の未来のあり方を人々の総意を反映した民主主義的

な方式で決定していくことが望まれるからです。科学技術に対する若者の意識関心が全体的に低い理由の一端としては、大人たちが将来の社会をどういうものにしたかという明確なビジョンを打ち出していないことが大きいかもしれません。2020年を目処に炭酸ガスの排出を20%削減するという方針を決定しその実現に取り組んでいる欧州連合に比べ、日本の取り組みは遅れています。環境問題に対する日本の若者の危機感が強いのは、その裏返しかもしれません。しかしその一方で、科学技術に対する信頼感が薄れているのも、日本の若者を取り巻く現状と思われる。その意味で、大人たち、科学技術関係者がサイエンスコミュニケーションを通じて自分たちの見解や提案を発信していくことの重要性が改めて確認されると同時に、3地域の今後の連携の継続で合意がなされました。

65. 総括セッション「未来の地球 日本からの提案」

サイエンスアゴラ2008のメインテーマ「地球の未来 日本からの提案」を受け、持続可能な発展を目指す上で社会は科学技術をどのようにコントロールしていくべきかを論議し、指針を搜しました。



●プログラム

基調講演 吉野 彰(旭化成株式会社グループフェロー)

「イノベーションに必要なコミュニケーション力——リチウムイオン二次電池の実例に学ぶ」

パネル討論:(五十音順)

上田 昌文(サイエンスアゴラ実行委員、NPO 法人市民科学研究室代表)、香山 リカ(立教大学教授)、永山 國昭(サイエンスアゴラ実行委員長、岡崎統合バイオサイエンスセンター長)、元村 有希子(毎日新聞記者)、吉野 彰

コーディネーター:渡辺 政隆(サイエンスアゴラ事務局)

基調講演者の旭化成株式会社グループ吉野フェローからは、およそ30年ごとに技術革新による社会変革がなされてきたことが強調されました。いちばん最近の変革は1995年になされたIT革命でした。その伝でいけば、次の変革は2025年に実現することになります。それがどのようなものかは、現時点では予測できないが、キーワードとしては資源、環境、エネルギー、メンタルなどが考えられます。そしてそこでルネサンスが起こることで、新たな社会変革がなされることだろう。そのための今われわれは何をなすべきかが問題であるとの指摘がありました。

パネル討論では、それぞれ精神科医、市民活動家、ジャーナリスト、科学者、技術者の立場から、科学技術不信が募り、人々がそれぞれの殻に閉じこもりがちな社会の閉塞感を打開する必要があるとの意見が出されました。そのためには、科学技術に対する信頼感を回復すると同時に、その活用方法を各自が身につける必要があります。そして科学技術のルネサンス、すなわち人間や環境にやさしい科学技術の復興・再生を目指すべきであり、その夢を語る必要があるとの意見が出されました。そして、ルネサンスの方向性を見出す上で、サイエンスコミュニケーションの役割は大きいですが、サイエンスコミュニケーションを目的とすべきではない。コミュニケーションはあくまでも科学リテラシーや来るべきルネサンスが目指すべき方向性を共有するためのツールであり、目的と手段を取り違えてはいけないとの総括がなされました。

サイエンスアゴラ2009に向けて

サイエンスアゴラ2009は、初めての試みとして、11月初旬の4日間開催を目指す予定です。ただし出展者の負担が増えないよう、プログラムの組み立てや、日ごとのテーマ設定などの工夫を考えています。詳細が決まり次第、サイエンスアゴラのウェブページなどを通じてお知らせする予定です。また、サイエンスアゴラ2008のプログラム内容の報告なども、準備ができたものから随時公開する予定です。サイエンスアゴラを1年1回の催しに終わらせず、常に息つき成長する広場にしていきたいと思っています。今後ともみなさまのご助言、ご支援、ご協力をお願いします。

サイエンスアゴラ実行委員より

永山 國昭 委員長

独立行政法人科学技術振興機構 科学技術理解増進事業統括/
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター長

アゴラは人々の集まる広場である。アゴラは人々の語り合う広場である。サイエンスアゴラは、その上にサイエンスの感動を分かち合う広場でもある。だから、サイエンスアゴラの基本は人にある。その人とは、サイエンスの感動を人に伝えることを喜びとするサイエンスコミュニケーターである。大学であれ、小、中、高校であれ、企業であれ、役所であれ、ミュージアムであれ、NPOであれ、組織の中でサイエンスコミュニケーションに生きがいを見出す人がサイエンスコミュニケーターで、その人たちがアゴラの主役だ。2008年サイエンスアゴラの飛躍はその主役達の活躍から生まれたのである。来年のさらなる飛躍に期待したい。

縣 秀彦

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
国立天文台天文情報センター 准教授

サイエンスアゴラは3年目を迎え、科学の普及に関心を持つ人たちに広く認知されるようになった。今後は、アゴラを中心に日本各地で科学フェスティバルが開催され、科学文化の形成が国内で進展することが期待される。

上田 昌文

NPO 法人市民科学研究室 代表

「サイエンス・プレゼンテーション・コンテスト」などアゴラの常設となりそうなもの、企業による科学教育・環境教育の展示、専門家と素人との一歩踏み込んだ対話のためのワークショップ……2008年のこうした企画に感じた手応えをどう持続させ次につなげるかをじっくり考えたい。

岡部 和彦

産業技術総合研究所臨海副都心センター 副センター長

主催者側の広報に対する熱意、工夫が今一つ目に見えなかったのは残念でした。今後もサイエンスアゴラを長く続けて行くなり、主催者側には関係者を積極的に牽引してアゴラを盛り上げて頂きたいと思います。

木村 政司

日本大学芸術学部 教授

アゴラが会場とうまく融合できていたとは思えないが、会場の力がアゴラに入場者を呼んだことは間違いなく感じた。内容は徐々に面白くなってきているとはいえ、運営方法や見せ方のマネージメントにもっと気配りをし、サイエンスコミュニケーションのセンスアップを図るべきであると考えている。

佐倉 統

東京大学大学院情報学環 教授

内容・参加者・運営ともに、多様性ととも安定性を増したという印象をもった。科学コミュニケーション界において、一定の地歩を築きつつあると言ってよいと思う。あとは、運営形態の再考(JST主催で良いのかという問題)と、理科教育方面とのさらなる連携、および国際化が課題か。

下野 隆二

パナソニックセンター東京リスピーア 館長

洞爺湖サミットで地球温暖化対策が議論されたり、中国の国家主席が日本の環境技術の供与に期待を表明したり、今回のノーベル賞など、日本の科学技術への期待値が高まっている昨今、今後は外国からの来場者が目立つようなグローバル視点でのイベントに育っていかばと思っている。

中島 義和

日本科学未来館 副館長

アゴラも第三回目を迎え、参加者も昨年より倍増したことは、会場のホスト館としては嬉しい限りである。プログラムも数多くリッチな内容となってきているが、今後の課題として、参加者が皆で気楽に語り合う場の一層の充実が望まれる。

中村 日出夫

全国中学校理科教育研究会 顧問

子どもたちには科学に進んで関わり、自然を探究する能力や態度を育成することが強く求められています。今後もこのイベントが科学の貴重な体験の場として子どもたちや先生方に定着し、科学的リテラシー涵養の一翼を担うことを期待します。

長神 風二

東北大学脳科学グローバルCOE 特任准教授

サイエンスアゴラの更なる発展には、空疎な巨大化に陥らず、規模の拡大を対話の機会・連携の可能性などの増大につなげる充実が必要だ。同時に支えるコミュニティとマーケットの発展も重要だ。前者は実行委員に、後者は日本のサイエンスコミュニケーションの発展を願う全ての人に課せられた重い課題だ。

美馬 のゆり

公立はこだて未来大学 教授

サイエンスアゴラは、科学技術政策への多角的な参与、政策への提言を意識した場の提供、市民の科学リテラシー向上のための科学コミュニケーション活動の裾野拡大と質の向上を目指しています。今後は東京だけでなく、地方やアジアに展開していく可能性もありそうです。

山口 慶子

電通テック ゼネラルプロデューサー

科学には想像力と創造力、この「ソウゾウ」が重要だと来場者が感じる場になればと思いました。会場サイン・運営・広報等、来場者を気持ちよく巻込む工夫の余地はまだあります。科学コミュニケーションに焦点を当てる企画を。

渡辺 泰司

日本学術会議事務局 参事官

子供から大人まで、幅広い層の方が集まり、科学に触れ、考え、語り合う場として、研究者、学生、サイエンスコミュニケーション関係者等が一堂に会し、同じ目線で議論等ができる場として大きな役割を担っていると思います。より多くの方が参加できる仕組み創りが重要と考えます。

※所属は2008年12月現在のものです

さまざまな方々から多くの批判と助言、励ましをいただきました。また、数多くのおみなさんからご支援、ご協力をいただきました。名前をあげる余裕はありませんが、この場を借りてお礼を申し上げます。サイエンスコミュニケーションは常に発展途上の活動理念です。いただいたご意見のすべてを栄養として

サイエンスアゴラ2009開催に向けて邁進します。「サイエンスアゴラ2009」は、前年と同じ国際研究交流大学村を会場に10月31日～11月3日の開催を予定しています。

サイエンスアゴラ事務局 渡辺 政隆 笠松 舞

プログラム／登壇者

11月22日土

1 交流館・メディアホール(3F) 9:30-12:00 参加人数 50

聞く みんなで考えよう! これからの理科教育 事前登録

主催: 独立行政法人科学技術振興機構(JST)理科教育支援センター

佐藤 和彦(新潟県立教育センター)、千葉 和義(お茶の水女子大学)、武藤 良弘(財団法人ソニー財団)、山極 隆(玉川大学)、天野 徹(JST)、小倉 康(JST・国立教育政策研究所)/司会

2 交流館・会議室1(4F) 10:00-14:30 参加人数 50

聞く 科学館のチャレンジ～展示開発の成果発表会

主催: 独立行政法人科学技術振興機構(JST)活動推進課

科学技術館、千葉県立中央博物館、神奈川県立青少年センター、川崎市青少年科学館、きしだ自然資料館、かわべ天文公園、アクアトム、小樽市総合博物館、広島市森林公園昆虫館 *ポスター・開発物等は多目的ホールに展示

3 交流館・会議室2(4F) 10:00-12:30 参加人数 50

聞く アウトリーチの新しいあり方～モデル開発発表会

主催: 独立行政法人科学技術振興機構(JST)活動推進課

国立国際医療センター研究所、大阪大学 コミュニケーションデザイン・センター、独立行政法人土木研究所自然共生研究センター、九州大学知財本部、山形大学、公立はこだて未来大学 *ポスターは多目的ホールに展示

4 未来館・会議室1(7F) 10:30-11:40 参加人数 58

話す 大学アウトリーチの可能性

主催: 東京大学アウトリーチイニシアティブ(UtoI)

内田 麻理香(東京大学 工学部)、大木 聖子(東京大学 地震研究所)、横山 広美(東京大学 理学部)、加村 啓一郎・住田 朋久・林 洋平(UtoI)

5 未来館・企画展示ゾーンa(1F) ①10:30-11:30 ②12:30-13:30 参加人数 30

体験 レーウェンフック顕微鏡のレプリカを作ろう 事前登録

主催: 岐阜工業高等専門学校

羽淵 仁恵(岐阜工業高等専門学校 電気情報工学科)

6 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:30-12:00 参加人数 40

体験 地球温暖化を防ぐ、新エネルギー太陽電池を学ぼう! 事前登録

主催: シャープ株式会社

寺野 保夫(シャープ株式会社 環境安全本部 環境社会貢献部)

7 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 11:00-11:40 参加人数 20

話す 研究者とかたるミニトーク「宇宙から雨をみる」 事前登録

主催: 日本科学未来館

可知 美佐子(JAXA 宇宙利用ミッション本部地球観測研究センター)、吉田 健二(日本科学未来館)/司会

8 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 複数回 参加人数 60

話す ダイオキシンの4億倍模型をつくり環境を考えよう

主催: 福井大学医学部分子生命化学

藤井 豊(福井大学医学部分子生命化学)、上田 昌範(福井大学発ベンチャー・福井ウルテック)

9 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 11:30-12:15 参加人数 40

見る オープニングセッション

主催: サイエンスアゴラ実行委員会

益田 孝彦(科学の鉄人選手権チャンピオン)、永山 國昭(サイエンスアゴラ実行委員長)、縣 秀彦・上田 昌文・中島 義和・中村 日出夫・長神 風二・山口 慶子(サイエンスアゴラ実行委員)

11 未来館・イノベーションホール(7F) 13:00-14:30 参加人数 40

聞く ロボットが活躍する未来へ～早稲田大学WABOT開発史と実用化の可能性～ 事前登録

主催: 早稲田大学大学院政治学研究所科学技術ジャーナリスト養成プログラム(MAJESTy 映像グループ)

林 勝彦(科学技術ジャーナリスト塾塾長)、石井 裕之(早稲田大学先端科学・健康医療融合研究機構)、中居 広起(MAJESTy)

12 未来館・会議室1(7F) 13:00-14:10 参加人数 20

話す 動き出した2つの輪:「科学者コミュニケーション」の未来図

主催: OtoI(東京大学大学院理学系研究科有志 科学コミュニケーショングループ)

小寺 千絵・音野 瑛俊(東京大学大学院理学系研究科)、横山 広美(東京大学大学院理学系研究科准教授)

13 未来館・企画展示ゾーンa(1F) ①13:00-14:10 ②14:25-15:35 ③15:50-17:00 参加人数 40

体験 新旧エネルギー対決・キャンドルづくりと燃料電池体験 事前登録

主催: 新日本石油 株式会社

杉浦 出(新日本石油株式会社 社会環境安全部)

14 交流館・国際交流会議場(3F) 13:00-14:30 参加人数 100

聞く 動物園が開く窓 事前登録

主催: サイエンスアゴラ実行委員会

小菅 正夫(旭川市旭山動物園長)、牧 慎一郎(TVチャンピオン動物園王選手権チャンピオン)、中村 景子(スペースタイム)/司会

15 交流館・メディアホール(3F) 13:00-14:30 参加人数 50

話す 日本の科学技術コミュニケーションはいかにあるべきか? 第四期科学技術基本計画に向けた提言

主催: NPO法人サイエンスコミュニケーション

長神 風二(東北大学)、尾内 隆之(立教大学)、榎木 英介(NPO法人サイエンス・コミュニケーション)、春日 匠(NPO法人サイエンス・コミュニケーション)/司会 ほか13名

16 未来館・会議室1(7F) 15:00-17:00 参加人数 30

話す インタープリターワークショップ: 食の安全を考えよう

主催: 東京大学科学技術インタープリター養成プログラム

山科 直子(東京大学 特任准教授)、稲垣 光雄(全国海水養魚協会 専務理事)、小平 均(内閣府食品安全委員会 リスクコミュニケーション官)、黒田 玲子(東京大学 教授)

17 未来館・会議室3(7F) 15:00-16:30 参加人数 100

聞く サイエンス・ダイアログ～科学で世界とつながれ! 事前登録

主催: 独立行政法人日本学術振興会

ヤニック・クラン(早稲田大学理工学部)、芝崎 聡一郎(早稲田大学大学院)、山梨県立留高等学校

18 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 15:30-16:30 参加人数 30

聞く見る 出張!! サイエンスミュージアム

主催: かはくSC2008

安田 和宏・河原崎 朋子・嘉田 健作・古垣 内彩・岩崎 永治・養田 裕美・宮崎 寧子(国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座2008年度SC1受講生)

19 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 15:00-16:30 参加人数 20

体験 アルミ фольで貨物船をデザインして作ってみよう!

主催: 鈴鹿工業高等専門学校

兼松 秀行・小林 達正(鈴鹿工業高等専門学校材料工学科)

20 交流館・メディアホール(3F) 15:00-17:30 参加人数 40

話す 本音で語る「研究問題」～研究問題 メーリングリストの10年～

主催: NPO法人サイエンスコミュニケーション

榎木 英介・横山 雅俊・大隈 貞嗣(NPO法人サイエンス・コミュニケーション)

プログラム／登壇者

21 交流館・会議室3(4F) 15:00-17:00 参加人数 22

体験 欧米で行われているロボティクス授業の日本での展開 [事前登録](#)

主催：レゴジャパン株式会社 レゴ エデュケーション、株式会社ナリカ

小林 健介(株式会社ナリカ)、樺山 資正(レゴジャパン株式会社レゴ エデュケーション)

22 未来館・イノベーションホール(7F) 15:30-16:50 参加人数 40

話す 環境教育に未来はあるか～ESD(持続可能な開発のための教育)に向けて中学校の現場から考えよう!～

主催：KOJII CORNER(コジイ・コーナー)

中里 直(板橋区立中台中学校)、飯塚 光司(新宿区立四谷中学校)、小石 裕之(法政大学第二中学校)

23 交流館・国際交流会議場(3F) 15:30-18:00 参加人数 170

間 日欧米国際シンポジウム～地球の環境と科学リテラシー [事前登録](#)

主催：サイエンスアゴラ実行委員会

相澤 益男(総合科学技術会議議員)、ルイジ・ベルリングエル(元イタリア文部科学大臣)、スヴェイン・ショーバーク(オスロ大学教授)、マチ・ディルワース(米国国立科学財団東京事務所長)、北澤 宏一(JST 理事長)、美馬 のゆり(公立はこだて未来大学教授) / 司会

11月23日 日

24 未来館・みらいCANホール(7F) 10:30-12:00 参加人数 150

間 目指せ! 科学のアスリート 国際科学オリンピック日本開催に向けて [事前登録](#)

主催：日本科学オリンピック推進委員会

江崎 玲於奈(ノーベル賞受賞者、日本科学オリンピック推進委員会会長)、金澤 一郎(日本学術会議会長)

25 未来館・イノベーションホール(7F) 10:30-12:00 参加人数 60

間 出版不況下の科学雑誌を語る～科学雑誌の新しい形を求めて～

主催：早稲田大学大学院 政治学研究所 科学技術ジャーナリスト養成プログラム(MAJESTY)

上岡 義雄((株)日経サイエンス 代表取締役社長)、森 撰((株)オルタナ 編集長)、楠 晴奈((株)リバネス 教育開発&コーディネーター)、元村 有希子(毎日新聞東京本社 科学環境部記者)、西村 吉雄(東京工業大学 監事)

26 未来館・会議室1(7F) 10:30-12:30 参加人数 30

話す 脳と機械をつなぐ!? 一脳科学者といっしょに考えよう

主催：文部科学省脳科学研究戦略推進プログラム東京大学佐倉グループ

牛場 潤一(慶應義塾大学理工学部)、佐倉 統(東京大学大学院情報学環)、吉峰 俊樹(大阪大学大学院医学系研究科)

27 未来館・会議室3(7F) 10:30-16:30 参加人数 147

間 工学っておもしろい! ～中学生で学べること～ [事前登録](#)

主催：経済産業省

二タ村 森(経済産業省大学連携推進課)、中村 肇(三菱総合研究所 人間・生活研究本部)、大和 信夫(ワイズトン株式会社)、内田 麻理香(東京大学 工学部)、香月 理絵(東芝株式会社)、松山 千鶴(日産自動車株式会社)、本井 久之(株式会社IHI)、森下 信(横浜国立大学 環境情報研究院)、上野 豊(新和技術コンサルタント株式会社)、吉本 圭一(九州大学大学院 人間環境学研究院)

28 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:30-12:00 参加人数 20

体験 自然放射線の飛跡を見てみよう! [事前登録](#)

主催：有限会社ラド

戸田 一郎・戸田 武宏(有限会社ラド)

29 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:30-12:00 参加人数 104

間 見る サイエンス・プレゼンテーション2008(第1部)

主催：日本科学未来館

板橋 誠司、國光 陽子、永井 智哉、安田 和宏、渡邊 司 / 以上出演者 上田 昌文(NPO 法人市民科学研究室代表)、木村 龍治(放送大学教授)、チャーリー 西村(米村でんじろうサイエンスプロダクション)、八幡 紘声史(国際プレゼンテーション協会理事長)、横山 広美(東京大学准教授)、中島 義和(日本科学未来館副館長) / 以上審査員 五十嵐 海央(日本科学未来館) / 司会

30 交流館・メディアホール(3F) 10:30-12:00 参加人数 40

間 「へんでこ生物」が人類を救う? 自然に学ぶ循環型社会

主催：独立行政法人理化学研究所

守屋 繁春(理研基幹研究所)、井藤 賀操(理研横浜研究所)、石田 健一郎(筑波大学大学院)

31 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 11:00-11:40 参加人数 20

話す 研究者とかたるミニトーク「温暖化でお米はどう変わる?」 [事前登録](#)

主催：日本科学未来館

吉本 真由美(独立行政法人農業環境技術研究所 大気環境研究領域)、提髪 玲子(日本科学未来館) / 司会

32 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 12:30-14:00 参加人数 50

間 理系作家トーク「科学を語る言葉」

主催：サイエンスアゴラ実行委員会

福岡 伸一(青山学院大学教授)、最相 葉月(ノンフィクションライター)、渡辺 政隆(サイエンスアゴラ事務局) / 司会

33 交流館・メディアホール(3F) 12:30-14:20 参加人数 50

間 分子の世界をアートとエコロジーから見る

主催：分子計算と視覚化研究会

本間 善夫(Webサイト「生活環境化学の部屋」)、千田 範夫(テンキューブ研究所)、佐藤 健太郎(Webサイト「有機化学美術館」)、小俣 友輝(北海道大学)、時田 澄男(埼玉大学名誉教授)

34 未来館・みらいCANホール(7F) 13:00-15:30 参加人数 295

間 将棋棋士の「直観思考」を科学する! *総合案内所で整理券を配布します

主催：独立行政法人理化学研究所

野依 良治(理化学研究所理事長)、伊藤 正男(理化学研究所脳科学総合研究センター特別顧問)、川妻 庸男(富士通株式会社経営執行役員常務)、米長 邦雄(日本将棋連盟会長)

35 未来館・イノベーションホール(7F) 13:00-14:30 参加人数 50

間 水をめぐる旅 水の科学技術リテラシー

主催：日本学術会議 科学と社会委員会科学力増進分科会、国際基督教大学

吉野 輝雄(国際基督教大学)、高橋 一生(国連大学)、小川 義和(国立科学博物館)、北原 和夫(国際基督教大学) / 司会

36 未来館・会議室1(7F) 13:00-14:20 参加人数 30

話す 第三回サイエンスショップ・シンポジウム 教育プログラムとしてのサイエンスショップ

主催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(大阪大学CSCD)

平川 秀幸・山内 保典(大阪大学CSCD)

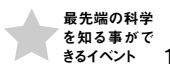
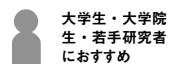
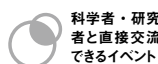
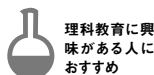
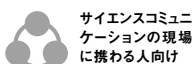
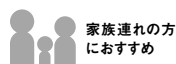
37 交流館・国際交流会議場(3F) 13:00-14:30 参加人数 200

間 世界天文年 キックオフシンポジウム～宇宙・地球・生命 みんなで解き明かすために～ [事前登録](#)

主催：世界天文年2009日本委員会

海部 宣男(世界天文年2009日本委員会 委員長)、渡部 潤一(世界天文年2009日本委員会 企画委員長)、有本 淳一(京都市立塔南高等学校)、梅本 智文(国立天文台)、小貴 良行(理化学研究所)、平野 都子(元プラネタリウム解説者・博物館ボランティア)

おすすめマーク



プログラム／登壇者

39 交流館・会議室3(4F) 13:00-17:00 参加人数 20

話す 科学情報とウェブ I 科学情報の特性と効果的な情報デザイン

主催：東京大学佐倉統研究室、日本科学未来館

林 和弘(日本化学会)、長神 風二(東北大学)、水島 久光(東海大学)、生員 直人(Creative Commons)、須永 剛志(多摩美術大学)、広島 麻紗子(Web Designing)、古堅 真彦(IAMAS)、脇田 玲(慶應義塾大学)、大和 比呂志、山辺 真幸(アライアンスポート)、大橋 正司(東京大学)、小沢 淳(日本科学未来館)

40 未来館・企画展示ゾーンa(1F) ①13:30-14:15 ②15:00-15:45 参加人数 73

体験 サントリー「水育(みずいく)」わくわくワークショップ ～水のふしぎ～ 事前登録

主催：サントリー株式会社

「水育(みずいく)」講師

41 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 14:30-17:00 参加人数 240

聞く 見る サイエンス・プレゼンテーション2008(第2部)

主催：日本科学未来館

でんきの科学館、代島 慶一、さかさバンドと仲間たち、日本科学未来館ボランティア「ノーベル隊」/以上出演者 上田 昌文(NPO法人市民科学研究室代表)、木村 龍治(放送大学教授)、チャーリー西村(米村でんじろうサイエンスプロダクション)、八幡 紘芦史(国際プレゼンテーション協会理事長)、横山 広美(東京大学准教授)、中島 義和(日本科学未来館副館長)/以上審査員 五十嵐 海央(本科学未来館)/司会

42 未来館・イノベーションホール(7F) 15:00-16:30 参加人数 80

聞く 科学で街を元気に! 科学フェスティバルは地域を活性化できるか? 事前登録

主催：サイエンスアゴラ実行委員会、21世紀科学教育の創造ワーキンググループ

中谷 健太郎(湯布院映画祭元主催者)、元村 有希子(毎日新聞社記者)、清原 慶子(三鷹市長)、西尾 正範(函館市長)、美馬 のゆり(公立はこだて未来大学教授)/コーディネーター、縣 秀彦(国立天文台准教授)/司会

43 未来館・会議室1(7F) 15:00-16:30 参加人数 30

見る 化学振動と生命現象

主催：秀島武敏(桜美林大学リベラルアーツ学群)

秀島 武敏(桜美林大学リベラルアーツ学群)

44 交流館・メディアホール(3F) 15:00-17:00 参加人数 56

話す 博士号取得者のキャリアパス支援の現状と課題

主催：日本地球惑星科学連合

木村 学(地球惑星科学連合 運営会議議長/東京大学 大学院理学系研究科)、原 辰彦(独立行政法人建築研究所)、高橋 幸弘(東北大学 大学院理学研究科)、井上 晴夫(首都大学東京 都市環境学部)栗本 猛(富山大学 理学部)、中野 明彦(東京大学 大学院理学系研究科/理研基幹研究所) 関係団体：日本地球惑星科学連合、日本物理学会、日本化学連合、生物科学学会連合

45 交流館・会議室2(4F) 15:00-16:30 参加人数 30

話す 国境を越えた科学のコミュニケーション エコロジー編

主催：国際研究交流大学村

田口 彰一(産総研 研究管理技術研究部門地球環境評価グループ)、石川 泰彦(日本科学未来館)、Kolpashnikova Kamila・Ragab Kayastha(東京国際交流館)

46 未来館・みらいCANホール(7F) 17:30-19:00 参加人数 160

聞く 疑似科学とメディア 事前登録

主催：日本学術会議 科学と社会委員会科学力増進分科会

池内 了(総合研究大学院大学理事)、毛利 衛(科学と社会委員会科学力増進分科会委員長、日本科学未来館館長)、佐倉 統・長谷川 壽一(東京大学教授)、鈴木 晶子(京都大学教授)/司会

47 未来館・イノベーションホール(7F) 17:30-19:00 参加人数 60

聞く 見る 『よみがえる京大サイクロトロン』上映&語り合いの会

主催：科学映像コミュニケーション研究会

中尾 麻伊香(東京大学大学院総合文化研究科)、林 衛(富山大学)

48 交流館・国際交流会議場(3F) 17:30-19:00 参加人数 180

聞く 英国王立研究所金曜講話再演「気候変動：宇宙が教えてくれること」 事前登録

主催：ブリティッシュ・カウンシル、サイエンスアゴラ実行委員会

マギー・アデルン・ボック(Science Innovation Ltd.)、永山 國昭(サイエンスアゴラ実行委員長)、根本 泰夫(ブリティッシュ・カウンシル)/司会

49 交流館・メディアホール(3F) 17:10-18:40 参加人数 30

話す 院生必見! 理工系・バイオ系の研究キャリアガイド

主催：生化学若い研究者の会キュベット委員会

榎木 英介(NPO法人サイエンスコミュニケーション)、橋本 昌隆(株式会社フューチャラボラトリ)ほか2名

11月24日 月休

50 未来館・みらいCANホール(7F) 10:30-12:00 参加人数 130

聞く 宇宙をわたる生命(いのち)2008

主催：JAXA宇宙環境利用科学研究ワーキンググループ「たんぼぼ」

山岸 明彦(東京薬科大学)、大石 雅寿(国立天文台)、河合 秀幸(千葉大学)、小林 憲正(横浜国立大学)、矢野 創(JAXA)、横堀 伸一(東京薬科大学)

51 未来館・イノベーションホール(7F) 10:30-12:10 参加人数 70

見る 科学ライブショー「ユニバース」

主催：学生集団「ちもんず」

半田 利弘(東京大学)、小川 慧(ちもんず/東京工業大学大学院)、松下 郁(ちもんず/東京工業大学大学院)、松下 まなみ(ちもんず/日本大学)

52 未来館・会議室1(7F) 10:30-11:50 参加人数 30

話す 科学技術の地平線～市民からのイノベーション発案 事前登録

主催：NPO法人市民科学研究室

上田 昌文・小林 友依・上村 光弘(NPO法人市民科学研究室)

53 未来館・会議室3(7F) 10:30-12:30 参加人数 50

話す 語り場～これからの科学コミュニケーター養成を考える 事前登録

主催：日本科学未来館

中山 迅(宮崎大学大学院教授)、マギー・アデルン・ボック(Science Innovation Ltd.)、春日 匠(大阪大学CSCD)、山科 直子(東京大学大学院)、小川 義和(国立科学博物館)、松島 淳一(日本科学未来館)、堀川 麻由子(日本科学未来館)/司会

54 交流館・メディアホール(3F) 10:00-11:30 参加人数 20

話す 循環型社会に貢献するバイオマス研究

主催：独立行政法人理化学研究所

守屋 繁春(理研基幹研究所)、菊地 淳(理研横浜研究所)、志甫 諒(応用工学研究所)、高橋 治雄(豊田中央研究所)、山澤 哲(鹿島建設 技術研究所)、元村 有希子(毎日新聞社)

55 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 11:00-11:40 参加人数 25

話す 研究者とつながるミニトーク「温暖化で変化する地球の植物」 事前登録

主催：日本科学未来館

鈴木 力英(JAMSTEC 地球環境フロンティア研究センター)、桑子 朋子(日本科学未来館)/司会

プログラム／登壇者

56 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 11:00-12:00 参加人数 26

体験 発泡スチロールのリサイクル～リモネンリサイクルのしくみ **事前登録**

主催：日本科学未来館 実験工房

渋谷 知子・渡部 晃子(日本科学未来館)

57 未来館・みらいCANホール(7F) 13:00-14:30 参加人数 120

聞く 徹底討論 地域から“日本の科学技術力”を考える

主催：サイエンスアゴラ実行委員会

佐久間 健人(高知工科大学学長)、下西 康嗣(長浜バイオ大学学長)、中島 秀之(公立ほこだて未来大学学長)、田柳 恵美子(公立ほこだて未来大学特任准教授) / 司会

58 未来館・会議室1(7F) ①13:30-14:30 ②15:00-16:00 参加人数 60

体験 オリジナルキーホルダーをめぐってつくろう

主催：宇部高専ものづくり科学工作教室

原田 邦彦(宇部高専 物質工学科)、長迫 亮(東京工業大学)

59 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 13:00-14:30 参加人数 60

聞く 理系作家トーク「スピリチュアルブームをぶっとばせ!」

主催：サイエンスアゴラ実行委員会

香山 リカ(立教大学教授)、植木 不等式(サイエンスライター)、渡辺 政隆(サイエンスアゴラ事務局) / 司会

60 交流館・国際交流会議場(3F) 13:00-15:00 参加人数 60

聞く 脳科学とは? 脳科学者になるには?

主催：脳と心と体の科学的理解推進会議

泰羅 雅登(日本大学大学院総合科学研究科)、大隅 典子(東北大学大学院医学系研究科)、松田 哲也(玉川大学脳科学研究所) / 司会

61 交流館・メディアホール(3F) 13:00-14:20 参加人数 40

話す 今、なぜ「サイエンス映像」なのか

主催：サイエンス映像学会(SVS)、日本科学技術ジャーナリスト会議(JASTJ)

林 勝彦(SVS副会長)、畑 祥雄(SVS事務局長)、小出 五郎(JASTJ会長)、藤田 貢崇(SVS/JASTJ理事) / 司会

62 交流館・会議室3(4F) 13:00-15:00 参加人数 20

話す 科学情報とウェブⅡ 科学館・博物館の取り組みをさぐる

主催：東京大学佐倉統研究室、日本科学未来館

戸田 孝(琵琶湖博物館)、小泉 成史(科学ジャーナリスト)、佐倉 統(東京大学)、楠見 春美(日本科学未来館)

63 未来館・イノベーションホール(7F) 13:30-15:00 参加人数 100

聞く 科学を伝えるということ ～サイエンスビジュアルコミュニケーションの役割と重要性～

主催：TANE+1 LLC(タネプラスワン)

松尾 義之、堀木 一男、八十島 博明、D. Mazierski(トロント大学バイオコミュニケーション学部准教授)、Tomo Narashima(TANE+1 サイエンスイラストレーター)

64 未来館・会議室3(7F) 13:30-15:00 参加人数 25

話す これていいの大学院生～夏の学校いまむかし

主催：生化若手夏の学校、物性若手夏の学校

安藤 康信(東京大学、第53回物性若手夏の学校代表)、飯島 玲生(大阪大学、第48回生命科学夏の学校実行委員長)、西方 公郎(横浜市立大学、第48回生物物理夏の学校副校長)

65 未来館・みらいCANホール(7F) 15:00-17:00 参加人数 130

話す 聞く 総括セッション～未来の地球 日本からの提案

主催：サイエンスアゴラ実行委員会(協力：旭化成株式会社)

吉野 彰(旭化成グループフェロー)、香山 リカ(立教大学教授)、上田 昌文(NPO法人市民科学研究室代表)、元村 有希子(毎日新聞社記者)、永山 國昭(サイエンスアゴラ実行委員長)、渡辺 政隆(サイエンスアゴラ事務局) / 司会

66-a 未来館・会議室1(7F) 13:30-15:30 参加人数 50

聞く シルク・ド・さいえんす～特別セッション

主催：東京大学数物連携宇宙研究機構・科学技術広報研究会

村山 斉(東京大学数物連携宇宙研究機構)、増田 直紀(東京大学大学院)、宝田 晋治(産業技術総合研究所)、目代 邦康(自然保護助成基金)

期間中開催 ポスター・ブース展示・実演

※ポスター・ブース展示について、12:00～13:00、14:30～15:30(最終日のみ14:30～15:00)は各主催者と会える可能性の高い時間帯として設定しました。

66 未来館・会議室2(7F) 10:00-17:00 参加人数 90

話す 体験 聞く 見る シルク・ド・さいえんす～科学技術広報いろいろ

主催：科学技術広報研究会

小貫 良行(理化学研究所)、榎テクノシステムズ、澤田 結基・下村 正樹・安藤 尚功(産業技術総合研究所)、長谷部 喜八(海洋研究開発機構)、納口 恭明(防災科学技術研究所)、山崎 誠一(農業・食品産業技術総合研究機構)、マシミアノ・ブッキ(トロント大学)、小島 健一(社会科見学に行こう!主宰)、柴尾 英令(ゲームクリエイター)、開田 裕治(イラストレーター)、開田 あや(ライター)、森田 洋平・藤本 順平・多田 将(高エネルギー加速器研究機構)、山下 了(東京大学)

67 未来館・会議室2(7F) 10:00-17:00 参加人数 70

体験 見る めぐる、感染症として研究の今 サイエンスカフェP4

主催：BSL-4施設に関するリスクコミュニケーション研究会

68 未来館・シンボルゾーン(1F) ①13:00-13:25 ②16:00-16:25

聞く MEGASTAR-II Titan「消えない流れ星」

主催：日本科学未来館

代島 慶一・谷井 裕美子(日本科学未来館)

69 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:00-17:00

体験 かがく縁日 ものづくりをしながら科学を体験しよう

主催：科学読物研究会

70 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:00-17:00

体験 相対性理論シミュレーターに乗ろう!

主催：松井 淳、倉岡 稔、池田 昌浩(九州大学大学院 理学研究院 物理学部門)

71 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:00-17:00

体験 お子様の知性バランスを知る知性チェックプログラム実施中!

主催：リソー教育グループ

72 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:00-17:00

体験 レゴ®ブロックで地球環境と科学を考える!?

主催：レゴジャパン株式会社レゴエデュケーション

73 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:00-17:00

体験 サントリー「水育(みずいく)」わくわくクイズラリー

主催：サントリー株式会社

プログラム／登壇者

74 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:00-17:00

体験 見る 水琴窟(すいきんくつ) 一水と大地の響き—

主催: NPO法人 日本水琴窟フォーラム

75 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00

体験 再現! プラナリア実験室!!

主催: プロジェクトP

76 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00(22日・23日のみ)

話す 見る 横串フィールド

主催: サイエンスコミュニケーションネットワーク横串会(横串会)、サイエンスカフェを考える会、サイエンスポータル

サイエンスカフェを考える会、サイエンスポータル、横串会、東北大学サイエンスカフェ、とりはくティーパーティー、サイエンスカフェにいがた、神奈川県立川崎図書館、横浜国立大学、京都大学物質・細胞統合システム拠点(icems)、三省堂サイエンスカフェ、メディカルカフェ(札幌医科大学)、科学ひろば、サイエンスカフェはこだて、北陸先端科学技術大学院大学、九州大学ユーザーサイエンス機構(varicafe)、3E cafe、サイエンス・ドロップス、カフェ・シアンティフィーク東京、法政大学自然科学センター、カフェシアンティフィーク名古屋、サイエンスカフェ神戸

77 交流館・多目的スペース(1F) 10:00-17:00

体験 Space Tubing ~未来的な身体~

主催: 株式会社ジャンプトゥスペース(制作協力: 東京スペースダンス/ エクスプローラーズ・ジャパン株式会社)

78 交流館・ロビー(1F) 10:00-17:00

体験 見る 楽しい科学 —科学をアートするワークショップ—

主催: NPO法人科学芸術国際研究所(ISTA)

79 産総研展示コーナー(1F) 10:00-17:00(22日・23日のみ)

体験 見る サイエンス・スクエア臨海・休日公開

主催: 独立行政法人産業技術総合研究所臨海副都心センター

80 交流館・体育館(別棟4F) 13:00-17:00(※受付は16:30まで)(22日・23日のみ)

体験 紙ブーメラン教室

主催: サイエンスアゴラ実行委員会

佐々木 勝浩(国立科学博物館名誉館員)、中村 景子(スペースタイム)

81 みらいCANホール(7F) 10:00-17:00 参加人数 220

見る ノーベルかがくショー:ノーベル賞受賞のキセキ!

主催: 日本科学未来館ボランティア 化学のイノベーション実演チーム[ノーベル隊]

82 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:00-17:00(23日・24日のみ)

体験 見る mini セルフエスタ 2008in 東京

主催: 日本学術会議科学と社会委員会科学力増進分科会、独立行政法人科学技術振興機構

83 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:00-17:00

体験 見る 理研~新たな可能性に挑み続ける科学のパイオニア

主催: 独立行政法人理化学研究所

84 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:00-17:00(23日・24日のみ)

見る みんなもってるいのち展 いのちのなが〜い大冒険

主催: 神戸市立青少年科学館

85 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:00-17:00

見る 上空1万メートルから見た地球

主催: サイエンスアゴラ実行委員会(協力: 日本航空)

86 未来館・企画展示ゾーンa(1F) 10:00-17:00

見る サイエンスアピール・学生ポスターデザイン・アワード

主催: サイエンスアゴラ実行委員会

87 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00(23日・24日のみ)

見る 環境にやさしい化学実験 —マイクロスケール実験の紹介—

主催: 京都マイクロスケール実験研究会

88 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00

見る 茨城県における地域振興を目指した地質情報活用プロジェクト ~ジオパーク設立を目指して~

主催: 地質情報活用プロジェクト

89 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00

見る 遺伝学の未知の世界をきりひらく

主催: 国立遺伝学研究所

90 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00

見る 発生・再生研究の生命倫理とコミュニケーション

主催: 熊本大学グローバルCOE「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」・発生医学研究センター

91 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00

見る ライフサイエンスの情報を使いこなそう!

主催: ライフサイエンス統合データベースセンター

92 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00

見る 研究者から未来の科学者へアウトリーチ!

主催: 東大生産技術研究所「知の社会浸透」ユニット

93 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00

体験 見る 生き物はおもしろい!

主催: 東京大学大学院新領域創成科学研究科

94 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00

見る まだ誰も見たことのない世界へ! ~始動! 究極の顕微鏡・加速器~

主催: 大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所

95 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00

見る MISSION SCI-4 ~科学文化形成ユニットが目指すもの~

主催: 自然科学研究機構国立天文台 天文情報センター科学文化形成ユニット

96 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00

見る ScienceをThroughしていく新しい試み

主催: Sciensthrough

97 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00

見る 理科教育ツールとしての日本語バイオポータルサイト

主催: 国立情報学研究所 戦略研究プロジェクト創成センター

98 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00

見る 東大科学技術インタープリター養成軌跡

主催: 東京大学科学技術インタープリター養成プログラム


99 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00


見る 未来を担う子ども達のために大学が今できること!


主催: 愛知工業大学


プログラム／登壇者

100 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る 10000人の実験教室 in 長野県佐久市
主催：佐久市子ども未来館


101 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る 星のある暮らし～「語り部」活動による科学との出会い
主催：サイエンススクール「星の語り部」


102 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
体験 見る 「さくっとサイエンス」ずばっとHow much?
主催：東京工業大学科学技術コミュニケーション論


103 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
体験 見る 「科学技術リテラシー」タイプ別簡単診断!
主催：東京工業大学科学技術リテラシープロジェクト


104 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る 金曜は出前授業、土曜はサイエンスカフェ
主催：NPO法人 Science Station


105 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る 「てがき」にこだわって電子黒板を利用した質問掲示板
主催：佐藤 実(東海大学)


106 交流館・ロビー(1F) 10:00-17:00 
見る 魅力ある時間学の世界へ
主催：山口大学時間学研究所


107 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る 動き出した2つの輪：“科学者コミュニケーション”の未来図
主催：Oto1(東京大学大学院理学系研究科有志 科学コミュニケーショングループ)


108 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る 花崗岩を通して地域を考える
主催：つくば市立手代木中学校PTA会員


109 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る 宇宙少年団未来MM分団の活動紹介
主催：宇宙少年団未来MM分団


110 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る サイエンスコミュニケーションinやまなし
主催：Science Chest


111 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る JAXA/ISAS「君が作る宇宙ミッション」の紹介
主催：JAXA/ISAS 宇宙教育センター 君が作る宇宙ミッション事務局


112 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る 科学ライブショー「ユニバース」と学生集団「ちもんず」
主催：学生集団「ちもんず」


113 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る 科学技術リテラシー育成のための自律型対話プログラム
主催：「自律型対話プログラムによる科学技術リテラシーの育成」研究プロジェクト(LSSL研究会)


114 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る 国際科学技術コンテスト「科学オリンピックへの道」
主催：独立行政法人科学技術振興機構(JST)先端学習支援課、日本科学オリンピック推進委員会(JSOC)


115 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る のぞき見! 科学技術情報Web サイエンスポータル
主催：サイエンスポータル編集部


116 交流館・ホワイエ(3F) 10:00-17:00 
見る 大人のための秘密のパンフ「おとなび」の紹介
主催：おとなび編集部


117 交流館・ロビー(1F) 10:00-17:00 
見る Web3Dグラフィックスで創るステレオ仮想世界
主催：文教大学情報学部広内研究室


118 交流館・ロビー(1F) 10:00-17:00 
見る 宇宙エレベーター The Space Elevator
主催：日本宇宙エレベーター協会


119 交流館・ロビー(1F) 10:00-17:00 
見る 科学実験で迫る「食べ物と身体と地球のつながり」
主催：NPO法人市民科学研究室


120 交流館・ロビー(1F) 10:00-17:00 
見る 食の安全のリスクコミュニケーションを考えよう
主催：内閣府食品安全委員会事務局

121 交流館・ロビー(1F) 10:00-17:00 
見る 参加型ゲーミングで知る環境問題—食の安全・安心
主催：早稲田大学理工学術院 創造理工学部 泰山研究室

122 交流館・ロビー(1F) 10:00-17:00 
見る 死体はみんなの宝物! —動物遺体の役立て方、教えます—
主催：なにわホネホネ団


123 交流館・ロビー(1F) 10:00-17:00(23日・24日のみ) 
体験 トリビアいっぱい! サイエンスアゴラを楽しむ10の方法
主催：NPO法人シブヤ大学


124 交流館・ロビー(1F) 10:00-17:00 
見る TANE+1 for サイエンスビジュアルコミュニケーション ～科学を魅せるプロフェッショナルの仕事～
主催：TANE+1 LLC(タネプラスワン)米国NY州法人


交流館・多目的スペース(1F) 10:00-17:00 
見る 地域ネットワーク支援団体紹介
主催：独立行政法人科学技術振興機構(JST)活動推進課
函館市、福島大学、静岡大学、神戸大学、鳥取大学、山口大学


おすすめマーク


 家族連れの方
におすすめ

 サイエンスコミュニ
ケーションの現場
に携わる人向け

 理科教育に興
味がある人
におすすめ

 科学者・研究
者との直接交
流できるイベント

 大学生・大学院
生・若手研究者
におすすめ

 最先端の科学
を知る事がで
きるイベント

プログラム一覧		11月22日(土)									
会場	部屋名	10	11	12	13	14	15	16	17	10	11
日本科学未来館	未来館・みらいCANホール(7F)										24 目指せ! 科学のアスリート国際科学オリンピック日本開催に向けて
	未来館・イノベーションホール(7F)				11 ロボットが活躍する未来へ～早稲田大学WABOT開発史と実用化の可能性～			22 環境教育に未来はあるか		25 出版不況下の科学雑誌を語る～科学雑誌の新しい形を求めて～	
	未来館・会議室1(7F)	4 大学アウトリーチの可能性		12 動き出した2つの輪:「科学者コミュニケーション」の未来図			16 食の安全を考えよう			26 脳と機械をつなぐ!? -脳科学者といっしょに考えよう	
	未来館・会議室2(7F)	66 シルク・ド・さいえんす～科学技術広報いろいろ 67 めぐる、感染症そして研究の今 サイエンスカフェP4									
	未来館・会議室3(7F)							17 サイエンス・ダイアログ～科学で世界とつながれ!		27	
	シンボルゾーン(1F)				68 MEGASTAR-II Titan						31
			7 ミニトーク JAXA研究者	コミュニケーション広場				18 出張!! サイエンスミュージアム			
			5 ①10:30～ レーウェンフック顕微鏡のレプリカを作ろう	②12:30～				19 アルミ фольドで貨物船をデザインして作ってみよう!			
			6 地球温暖化を防ぐ、新エネルギー太陽電池を学ぼう!		8 ダイオキシンの4倍倍模型をつくり環境を考えよう						28 自然放射線の飛跡を見てみよう!
	未来館・企画展示ゾーンa(1F)				13 13:00～ 新旧エネルギー対決・キャンドルづくりと燃料電池体験	②14:25～	③15:50～				
		69 かがく線日 ものづくりをしながら科学を体験しよう		70 相対性理論シミュレーターに乗ろう!							
		71 お子様の知性バランスを知る知性チェックプログラム実施中!		72 レゴ®ブロックで地球環境と科学を考える!							
		73 サントリー「水育(みずいく)」わくわく クイズラリー									
		74 水琴窟(すいきんくつ) 一水と大地の響き		83 理研～新たな可能性に挑み続ける科学のパイオニア							
		85 上空1万メートルから見た地球		86 サイエンスアピール・学生ポスターデザイン・アワード							
			9 オープニングセッション			81 ノーベルかがくショー	81			29 サイエンス・プレゼンテーション2008(第1部)	
東京国際交流館	交流館・国際交流会議場(3F)				14 動物園が開く窓			23 日欧米国際シンポジウム～地球の環境と科学リテラシー			
	交流館・メディアホール(3F)	1 みんなで考えよう! これからの理科教育			15 日本の科学技術コミュニケーションはいかにあるべきか? 第四期科学技術基本計画に向けた提言			20 本音で語る「研究問題」～研究問題メーリングリストの10年～		30 「へんてこ生物」が人類を救う? 自然に学ぶ循環型社会	
	交流館・ホワイエ(3F)	75 76 87～116 ポスター・ブース展示									
	交流館・会議室1(4F)	2 科学館のチャレンジ～展示開発の成果発表会									
	交流館・会議室2(4F)	3 アウトリーチの新しいあり方～モデル開発発表会									
	交流館・会議室3(4F)							21 欧米で行われているロボティクス授業の日本での展開			
	交流館・多目的スペース(1F)	77 Space Tubing～未来的な身体～									
	交流館・ロビー(1F)	78 楽しい科学—科学をアートするワークショップ— 117～124									
	交流館・体育館(別棟4F)	80 紙ブーム教室(受付は16:30まで)									
	産総研	産総研展示コーナー(1F)	79 サイエンス・スクエア臨海・休日公開 (燃料電池実験教室 13:30～14:30/15:00～16:00)								

イベント形式

話す 対話できるコミュニケーション型アコラです。

体験 工作教室など参加型アコラです。

聞く 講演・シンポジウムなど聞いてわかるアコラです。

見る ポスター・ブース展示など見てわかるアコラです。

11月23日(日)

11月24日(月・休)

11月23日(日)					11月24日(月・休)									
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	
	34 将棋棋士の「直観思考」を科学する!			81 ノーベルかがくショー		46 疑似科学とメディア	50 宇宙をわたる生命(いのち)2008		57 徹底討論 日本の科学技術力を考える		65 総括セッション〜未来の地球 日本からの提案			
	35 水をめぐる旅 水の科学技術リテラシー		42 科学で街を元気に! 科学フェスティバルは地域を活性化できるか?			47 「よみがえる京大 サイクロトン」上映&語り合いの会	51 科学ライブショー「ユニバース」		63 科学を伝えるということ〜サイエンスジャーナルコミュニケーションの役割と重要性〜					
	36 第三回サイエンスショップ・シンポジウム		43 化学振動と生命現象				52 科学技術の地平線〜市民からのイノベーション発表		66-a ①13:30〜 消えた反物質の謎 ②14:30〜 クロストーク					
66 シルク・ド・さいえんす〜科学技術広報いろいろ					66 シルク・ド・さいえんす〜科学技術広報いろいろ									
67 めぐる、感染症そして研究の今 サイエンスカフェP4					67 めぐる、感染症そして研究の今 サイエンスカフェP4									
工学っておもしろい! ~中高生で学べること~					語り場〜これからの科学コミュニケーター養成を考える					これでいいのか大学院生〜夏の学校いまむかし				
68 MEGASTAR-II Titan					68 MEGASTAR-II Titan									
ミニトーク 農環研究者 コミュニケーション広場					55 ミニトーク JAMSTEC 研究者 コミュニケーション広場									
82 miniセルフェスタ2008in 東京					82 miniセルフェスタ2008in 東京									
40 ①13:30〜 サントリー「水育(みずいく)」わくわくワークショップ ~水のふしぎ~ ②15:00〜					56 発泡スチロールのリサイクル〜リモネンリサイクルのふみ					58 ①13:30〜 オリジナルキーホルダーをめぐって つくろう ②15:00〜				
69 かがく緑日 ものづくりをしながら科学を体験しよう	70 相対性理論シミュレーターに乗ろう!				69 かがく緑日 ものづくりをしながら科学を体験しよう	70 相対性理論シミュレーターに乗ろう!				69 かがく緑日 ものづくりをしながら科学を体験しよう	70 相対性理論シミュレーターに乗ろう!			
71 お子様の知性バランスを知る 知性チェックプログラム実施中!	72 レゴ®ブロックで地球環境と科学を考える!				71 お子様の知性バランスを知る 知性チェックプログラム実施中!	72 レゴ®ブロックで地球環境と科学を考える!				71 お子様の知性バランスを知る 知性チェックプログラム実施中!	72 レゴ®ブロックで地球環境と科学を考える!			
73 サントリー「水育(みずいく)」わくわく クイズラリー					73 サントリー「水育(みずいく)」わくわく クイズラリー					73 サントリー「水育(みずいく)」わくわく クイズラリー				
74 水琴窟(すいきんくつ) — 水と大地の響き—	83 理研〜新たな可能性に挑み続ける科学のバイオニア				74 水琴窟(すいきんくつ) — 水と大地の響き—	83 理研〜新たな可能性に挑み続ける科学のバイオニア				74 水琴窟(すいきんくつ) — 水と大地の響き—	83 理研〜新たな可能性に挑み続ける科学のバイオニア			
84 みんなもってるいのち展 いのちのなが〜い大冒険	85 上空1万メートルから見た地球				84 みんなもってるいのち展 いのちのなが〜い大冒険	85 上空1万メートルから見た地球				84 みんなもってるいのち展 いのちのなが〜い大冒険	85 上空1万メートルから見た地球			
86 サイエンスアピール・学生ポスターデザイン・アワード					86 サイエンスアピール・学生ポスターデザイン・アワード					86 サイエンスアピール・学生ポスターデザイン・アワード				
32 理系作家トーク「科学を語る言葉」	41 サイエンス・プレゼンテーション2008(第2部)				32 理系作家トーク「科学を語る言葉」	41 サイエンス・プレゼンテーション2008(第2部)				59 理系作家トーク「スピリチュアルブームをぶっとばせ!」	81 ノーベルかがくショー			
37 世界天文年 キックオフシンポジウム〜宇宙・地球・生命 みんなで解き明かすために〜					37 世界天文年 キックオフシンポジウム〜宇宙・地球・生命 みんなで解き明かすために〜					60 脳科学とは? 脳科学者になるには?				
33 分子の世界をアートとエコロジーから見る	44 博士号取得者のキャリアパス支援の現状と課題				33 分子の世界をアートとエコロジーから見る	44 博士号取得者のキャリアパス支援の現状と課題				54 循環型社会に貢献するバイオマス研究	61 今、なぜ「サイエンス映像」なのか			
75 76 87 ~ 110 ポスター・ブース展示					75 76 87 ~ 110 ポスター・ブース展示									
45 国境を越えた科学のコミュニケーション エコロジー編					62 科学情報とウェブ II 科学館・博物館の取り組みをさぐる									
39 科学情報とウェブ I 科学情報の特性と効果的な情報デザイン					77 Space Tubing ~未来的な身体~									
77 Space Tubing ~未来的な身体~					77 Space Tubing ~未来的な身体~									
78 楽しい科学 — 科学をアートするワークショップ— 117 ~ 124					78 楽しい科学 — 科学をアートするワークショップ— 117 ~ 124									
80 紙ブーメラン教室(受付は16:30まで)					79 サイエンス・スクエア臨海・休日公開									

※イベント形式の分類は、あくまでも1つのヒントです。



地球の未来

日本からの提案

独立行政法人科学技術振興機構 (JST)
科学技術理解増進部 活動推進課 サイエンスアゴラ事務局

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
TEL:03-5214-7493 FAX:03-5214-8088
e-mail:agora@jst.go.jp

「サイエンスアゴラ」公式ホームページ:<http://scienceportal.jp/scienceagora/>

science agora 2008